

生産環境工学ガイド

———— BEE Guide 2026



Since 1940

生産環境工学科

Bioproduction and Environment Engineering

受講にあたってのルール

- ・単位の取得には、毎回2時間の予習および復習をしなければならない
- ・授業にふさわしい雰囲気づくりのため、受講にあたっては以下の行為を禁ずる

- (1) 授業開始後の入退室
- (2) 私語
- (3) 無許可での飲食
- (4) 情報端末（スマートフォン等）の無許可利用・無許可撮影
- (5) 受講にふさわしくない服装（無許可での帽子等）の着用
- (6) レポート等におけるインターネットからの無断引用
- (7) その他、授業の進行を妨げたり、雰囲気を悪くする行為

生産環境工学科

生産環境工学ガイド 2026 の発刊にあたって

この生産環境工学ガイドは、生産環境工学科の教員が学科所属の学生の皆さんのために編纂した冊子です。皆さんが充実した学生生活を送り、将来へ向かって大きく飛躍されることを願って教員一同で作りました。学科教員紹介を始め、履修に関すること、研究室の選択、生産環境コース・技術者養成コースの選択について、さらには就職に関すること、その他、本学科での4年間を通じて活用できる内容を掲載しています。

ここで、生産環境工学科の歴史について触れておきます。当学科は、1940年（昭和15年）に専門部農業工学科として創設され、2026年で86年目を迎えます。その前身は1905年（明治38年）に国から農大に委託された開墾および耕地整理技術員教育にあり、当時から実験実習教育を中心とした実学教育が行われてきました。1945年（昭和20年）には農業土木学科が新設され、1949年（昭和24年）に農学部農業工学科となりました。

1998年（平成10年）には大規模な学部改組により、農業工学が培ってきた農地造成・保全の技術を活かし、農業生産と周辺環境の共存と保全に貢献するため地域環境科学部生産環境工学科が誕生しました。大学院は1990年（平成2年）に農業工学専攻が設置され、現在に至っています。現在、生産環境工学科では、「農業環境工学分野」と「スマートアグリ分野」の2分野4研究室体制で教育・研究を行っています。2004年度からは日本技術者教育認定機構（JABEE）から、技術者教育を適切に実施している学科として認定を受けています。

本学は、21世紀の人類の課題である「生命」「食料」「環境」「健康」「エネルギー」「地域再生」を研究キーワードとして掲げています。生産環境工学科は、「食料生産・食料供給と環境保全との調和を図るための革新的な技術を追求する」をミッションとし、農業生産の現場の技術開発のみならず、気候変動や砂漠化などの地球的規模の環境問題や、流域レベルでの水質保全、農産物の加工やヒト・モノの輸送のための道路基盤に関する問題を解決に取り組む学びの場です。皆さんがこれらのテーマに興味・関心をもち研究課題とする目標を持ったならば、それに向かって学びを深めてください。意欲の高い皆さんのために我々教員も全力でサポートします。東京農業大学の創設者である榎本武揚公の建学の精神「学びてのち足らざるを知る」の精神のもと、現状に満足することなく常に高みを目指してください。

2026年4月

生産環境工学科 学科長 島田 沢彦

生産環境工学科ガイド 目次

生産環境工学ガイド 2026 の発刊にあたって

I 生産環境工学科の紹介

1. 学科の歴史	1
2. 入学者受入方針（アドミッションポリシー）	2
3. 教育研究分野と研究室	5
(1) 農業環境工学分野	
1) 農業土木学研究室	6
2) 環境資源学研究室	6
(2) スマートアグリ分野	
1) バイオロボティクス研究室	6
2) ジオデータサイエンス研究室	6
4. 教員の紹介	7
5. 2026 年度 生産環境工学科学級担任一覧	17

II コースの紹介と履修

1. 教育コースの選択	18
2. 実験・演習科目の履修	18
3. 履修方法	19
4. 生産環境コース	
(1) コース概要	25
(2) 学習・教育目標	25
5. 技術者養成コース	
(1) 技術者養成コース設置の経緯	27
(2) 技術者養成コース修了者への期待	28
(3) 技術者養成コースの教育理念	29
(4) 技術者養成コース アドミッションポリシー	29
(5) 技術者養成コースの学習・教育到達目標	29
(6) 学習・教育到達目標ごとの科目群と JABEE 基準および達成度評価	39
(7) 履修方法	44

Ⅲ 就職活動の案内

1. 就職活動の流れ	46
2. 生産環境工学科の就職状況	48

Ⅳ 大学院農業工学専攻の紹介

1. はじめに	49
2. 専攻の歴史	49
3. 教育・研究の内容	49
4. 育成する人材像	51
5. 修了生およびその進路先	51
6. 大学院論文タイトル紹介	53

Ⅴ 生産環境工学科におけるその他の取組み

1. 農工会	
(1) 概要	54
(2) 活動報告	54
(3) 会則	56

Ⅵ インフォメーション

1. 2026年度 年間授業計画	58
2. 2026年度 時間割	59
3. 2025年度 各賞受賞者	61
4. 在学意識調査結果	62
5. 技術者養成コースの教育に対する社会の評価	63
6. 技術者教育（技術者養成コース）に対する卒業生からの要望	68
7. 東京農業大学 構内配置図	70
8. 研究室・教室等案内図	71

生産環境工学科シンボルマーク



このシンボルマークは、生産環境工学科の前身である農業工学科のシンボルマークとして、平成2年に行われた50周年記念事業の一環で制作したものです。農業工学の欧文名 Agricultural Engineering の頭文字のAとEの小文字、aとeをデザインして双葉を形取り、上方に水滴を、根本に Since1940 の地面を付したものです。双葉は芽生えたばかりの植物であるのと同時に農大で学問に励む学生諸氏であり、水滴は灌漑を意味するのと同時に、大学卒業後も社会に出て大きく育ててほしいと願う我々の微力ながらの教鞭を意味したものです。

平成10年度に実施した学部改組により、現在の生産環境工学科に名称変更をしましたが、「人間食わずに生きらりよか」の青山ほとりの精神である、土を耕し、作物を植え、水をやるというわれわれの研究教育の姿勢は変わることはありません。地球環境を考えた食糧生産、生態系にしっかりと組み込まれた人間活動の確立はやはり植物を育てることにあり、その始まりはいつも芽生えであると思います。生産環境工学科は、これからも変わることなく生物生産を支援するエコ・テクノロジーを追求し続ける学科でありたいと考えています。

I 生産環境工学科の紹介

1. 学科の歴史

東京農業大学は、1891年（明治24年）に徳川育英会育英農科として創設され、1905年（明治38年）には農商務省から開墾及耕地整理技術員講習としての農業土木教育が委託された。これが本学科の成り立ちで、わが国の農業土木教育機関としては最も古い歴史を有する。そして、1940年（昭和15年）には、東京農業大学創立50周年の記念式典が行われ、この年に農業工学科が創設された。一方、長年にわたって継続されてきた伝統ある農林省委託の開墾及耕地整理技術員講習は、1955年（昭和30年）の農林省の機構改革によって廃止されるに至った。

1940年に創設された農業工学科は、その後1944年（昭和19年）に名称を農業土木科と改称し、1945年（昭和20年）には農学部にも農業土木学科が新設された。終戦後わが国の学制にも大改革がなされ、1949年（昭和24年）にはこの改革によって新制大学が設置されることになった。これに伴って旧制度による農業土木学科は廃止され、学科名を再び農業工学科として発足することになった。

そして、1990年（平成2年）には、農業工学科創設50周年記念式典が挙行され、この年4月より大学院農学研究科農業工学専攻修士課程が開設された。

1991年（平成3年）には東京農業大学創立百周年記念式典が挙行され、この時に本学は「地球時代の食料・環境・健康・エネルギー」に大学を挙げて取り組むことになった。そのためには学部を再編することが重要課題となり、生物学を基調とするユニークな総合大学を目指すべく従来の農学部を4つの学部にも再編することになった。すなわち、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部の4学部で、この再編にもなって、1998年（平成10年）に本学科は地域環境科学部に属し、生産環境工学科と名称を変更した。

学部・学科の再編による教育および研究体制の充実にあわせて、大学院教育を発展させるべく2002年（平成14年）4月より大学院農学研究科農業工学専攻博士後期課程が増設され、学部から大学院博士前期・後期課程まで一貫した専門教育の高度化が図られ今日に至っている。

生産環境工学科は、その前身である農業工学科の創設から今年で86年目をむかえる。近年における化石燃料を主とするエネルギーの多量消費や資源の乱開発・多使用など活発化した生産活動の影響は、温暖化、異常気象、沙漠化、内分泌系攪乱物質の蔓延など、地球規模に及ぶ環境の悪化という形で噴出し始め、人類と生物の存続をも脅かす問題となっている。

る。そのため、本学科では生物の存続と生産に当たり、長年培ってきた農業土木・農業機械技術を応用して、自然と共生した循環型社会を創造し、地球規模の環境保全を実現するために、以下のような新しい試みを展開し、教育に反映させている。

具体的には、①有用な生物資源の利活用を通して土地資源や水資源の持続的利用を進める資源利用、②放棄された農地や廃棄された植物性資源の有効利用、③衛星画像や地理情報システムを用いた環境劣化のモニタリングおよび原因の究明、④沙漠における土壌・大気間の水循環メカニズムに基づいた緑化のためのウォーターハーベスティング技術の開発、⑤社会資本の長寿命化技術と省資源・省エネルギーに有効な材料の開発、⑥河川水質を指標とした農業流域の生態系サービスと地域環境の評価、⑦生態系に配慮した新しい農作業環境の保全技術の開発、⑧限りある食糧資源を高品質な状態で有効に使うための農産物処理技術の開発、等々である。

本学科は生産環境コースと技術者養成コース(JABEE コース)の2つのコース制とし、各々の学習・教育目標を掲げ、すぐれた人材の育成に努めている。

2. 入学者受入方針 (アドミッションポリシー)

東京農業大学学則において、本大学はその伝統及び私立大学の特性を活かしつつ教育基本法に則り、生命科学、環境科学、情報科学、生物産業学等を含む広義の農学の理論及び応用を教授し、有能な人材を育成するとともに関連の学術分野に関する研究及び研究者の育成をなす事を使命としている。

その中で地域環境科学部は、まず1998年度の学部改組によって、森林総合科学科、生産環境工学科、造園科学科の3学科の構成により開設され、次いで2017年度の学部改組によって地域創成科学科が加わった。本学部は、生物に対する深い理解を基調として、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・開発・整備・管理のための科学技術を確立することを目指し、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、これらが集積して引き起こされるマクロな広域環境問題、さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献することを基本理念としている。

そこで、生産環境工学科は、21世紀最大の課題である「食料」、「環境」、「資源」、「エネルギー」などの諸問題に対して、「土」の文化と「農」の多面的意義を原点として、地域から地球へと考えることに重点を置きながら、人類の生存と発展を支えるための人材育成を基本的な学習・教育目標としている。また本学科では、「エコ・テクで生物生産を支援する」をテーマとして、長年培ってきた農業土木と農業機械の技術を応用して、省資源、省エネルギーおよびリサイクル技術などを導入し自然と共生する循環型社会を創造し、地球規模の環境保全を

実現するための新しい試みを展開できる教育・研究を実施している。

生産環境工学科

(1) 教育研究上の目的

本学科は、農業生産の場における土・水・施設・機械に関する技術を応用し、地域から地球規模まで考慮した環境保全に資する新たな農業生産技術とエコ・テクノロジーの開発を行うとともに、さらに、生産性向上のみでなく、環境・資源・エネルギーに配慮した計画・設計・施工・管理を行える倫理観を持った技術者を養成する。

(2) 教育目標

生産環境工学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 「土と水」の機能と地域の文化および「農」の多面的意義を理解して、人類の生存と発展を支えることのできる者
- (2) 地域から地球規模への環境保全を実現するための新しい試みを展開できる者
- (3) 省資源および省エネルギー技術などを導入して、自然と共生する循環型社会の創造に貢献できる者

(3) ディプロマ・ポリシー

〈生産環境工学科〉

生産環境工学科は、カリキュラム・ポリシーに掲げた項目に関する数物系の基礎的な科目および工学系の応用的な科目や実験実習演習科目を通して得られる能力、さらに現場作業への対応能力をも身につけ、かつ、所定の単位数を修得した以下の学生に対し、学位を授与します。

- (1) 自然科学に関する基礎知識と、農業生産や環境保全に関わる工学的専門知識や技術を身につけている。
- (2) 物事を論理的・客観的、さらに工学的に考える能力を修得し、学問や技術が社会や自然に及ぼす影響や効果および技術者が負うべき社会的責任について考え、何をなすべきかを判断できる見識を身につけている。
- (3) 「食料」、「環境」、「エネルギー」、「資源」、「農業」および「先端技術」などの問題に関心を持ち、解決しようとする意欲と姿勢を身につけている。
- (4) レポートや論文作成、口頭発表・討論等を通じて、自己表現能力・コミュニケーション能力を身につけている。

(4) カリキュラム・ポリシー

〈生産環境工学科〉

生産環境工学科のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の専門科目群に加え、分野・研究室ごとに「基礎実験」、「専攻実験」および「専攻演習（一）～（三）」を配当し、教育課程を編成しています。

- (1) 物質の循環や気候変動への適応、温暖化対策を基軸とし、持続的な社会の実現に向けた農業生産環境・生活環境にかかわる基盤整備に関する理論と技術を習得する科目群を配当する。
- (2) 農業生産環境・人間の生活環境および自然環境が共存する地域における土地や水、微生物、エネルギーなどの資源について、生態系に配慮した持続可能な利用および保全を実現するための理論と技術を習得する科目群を配当する。
- (3) フードチェーンを対象としたスマート化について、「機械」、「ロボティクス」、「AI」、「IoT」、「ICT」、「DX」などを活用して「設計」・「開発」・「評価」・「活用」できる知識・技術を習得する科目群を配当する。
- (4) 地域環境や生産フィールドを対象としたスマート化について、「AI」、「データサイエンス」、「UAV」、「GNSS」、「センシング」、「ビッグデータ」、「フィールドワーク」に活用できる知識・技術を習得する科目群を配当する。

(5) アドミッション・ポリシー

〈生産環境工学科〉

生産環境工学科は、「食料」、「環境」、「エネルギー」、「資源」、「農業」、「先端技術」をキーワードに、環境に配慮した農業生産を支える工学的な研究開発に挑戦し、持続可能な社会の創造に貢献する人材を養成しています。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 英語の基礎学力を有し、「数学」、「情報」、「物理」、「化学」および「生物」のうち一つ以上の科目を受験科目として学んでいる。
- (2) 「農業生産」および「環境保全」、「情報技術」、「先端技術」について興味がある。また、それらを学ぶための基礎となる数学や物理について関心がある。
- (3) ある問題の現状や原因、対策について、限られた情報だけから判断することなく、関連領域に好奇心を持ち多面的に考えることができる。
- (4) 積極的に自己アピールができ、かつ、他者とのコミュニケーションがとれ、課題解決に向けて能動的に学習する意欲と現地調査をいとわない等の行動力がある。

(5) 在学中に、工学的な考え方や技術を身につけ、自分の将来計画を考えることができ、その実現のために何をなすべきかを明確にできる。

3. 教育研究分野と研究室

生産環境工学科には、表 I -1 に示すように 2つの教育研究分野があり、各々の分野は2つの研究室によって構成されている。さらに、地域環境科学部教養分野に数学研究室がある。

表 I -1 生産環境工学科 分野・研究室・教員一覧

分 野	研 究 室	教 員
農業環境工学分野	農業土木学研究室	渡邊 文雄 教授
		鈴木 伸治 教授
		川名 太 教授
		中島 亨 教授
	環境資源学研究室	三原真智人 教授
		中村 貴彦 教授
		岡澤 宏 教授
		トウ ナロン 教授
スマートアグリ分野	バイオロボティクス研究室	浅倉 康裕 助教
		佐々木 豊 教授
		村松 良樹 教授
		川上昭太郎 准教授
	ジオデータサイエンス研究室	左村 公 准教授
		島田 沢彦 教授
		関山 絢子 教授
		平山 英毅 助教

表 I -2 地域環境科学部 分野・研究室・教員一覧

分 野	研 究 室	教 員
教養分野	数学研究室	江上 親宏 教授

(1) 農業環境工学分野

農業土木学・環境資源学の2研究室からなる。持続的な社会開発において自然と調和した安全で安心な生活空間と食糧生産が求められている。そのためには、農業土木と環境科学の知識が欠かせない。本分野では土と水の相互作用や水の循環、環境を配慮した構造物の材料の特性や設計を学べる。さらに地域の生態系を形成する水、土壌、微生物、バイオマスを環境資源と捉え、環境資源の保全と有効利用、新しい再生可能エネルギーの創出などを考えていく分野である。

これらの学びは、温室効果ガスの削減や最適な水管理、構造物の維持管理のほかに、気候変動に関わる環境の修復・保全・災害対策といったグローバルな環境問題にも活かされ、地域振興のみならず国際協力にも貢献できる。

1) 農業土木学研究室

温室効果ガスの排出削減や気候変動に適応した農業技術の開発、作物生育に最適な水管理の開発や沙漠緑化、また社会インフラに係わる技術的な課題に取り組んでいる。研究・教育を通じて、国内外で活躍できる自立した技術者の育成を目指している。

2) 環境資源学研究室

地域の生態系を形成する水・大気・土壌・微生物・バイオマス環境資源をとらえ、資源循環から持続可能な脱炭素社会の形成や生物多様性の保全に関わる環境資源の創出と有効利用、新しい再生可能エネルギーの生産、未利用物質・廃棄物の資源化について環境科学の視点から探究している。さらに、気候変動に関わる環境の修復・保全、災害対策といったグローバルな環境問題を農業農村工学的な視点から解決する教育・研究を行い、地域振興に貢献するとともに国際協力に取り組んでいる。

(2) スマートアグリ分野

フードチェーン・地域環境・生産フードを対象としたスマート化について、AI・データサイエンス・IoT・ICT・DX・機械・ロボティクス・ドローン・GNSS・センシング・ビッグデータ・フィールドワークに関する教育・研究を行う。

1) バイオロボティクス研究室

ロボティクスとは総合工学であるロボット工学を指し、スマート農業の一つの中核である。本研究室では、特にフードチェーンを対象としたスマート化について、機械、ロボティクス、AI、IoT・ICT・DXなどを活用して設計・開発・評価・活用できる知識・技術を習得できる。

2) ジオデータサイエンス研究室

生物生産の基礎となる地域環境情報を広域的視点で捉え、生物生産環境の維持・保全を視野にいたった環境改善計画手法を考究する。このため、地理情報・気象情報などを含めた幅広い分野の情報を効率的・合理的に収集・処理・解析する技術を研究している。

4. 教員紹介

農業環境工学分野 農業土木学研究室

渡邊 文雄 教授
Fumio WATANABE



E-mail アドレス : f-nabe@nodai.ac.jp

出身地 : 鹿児島県

趣味や特技 : 旅行

担当授業科目 : 流域水文学、環境物理学、地水環境工学ほか

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) PRD(Partial Root zone Drying) 灌漑におけるトマトの生育に及ぼす影響
- (2) BSC(Biological Soil Crust) を用いた土壌の水食抑制効果に関する研究
- (3) ケニア共和国サンブル県における土壌の吸水度を用いた表面流出量の推定
- (4) 点滴灌漑の給水位置の違いがコマツナの根系分布に及ぼす影響について
- (5) ウガンダ共和国東部地域の降雨データを用いた GSMaP の精度検証

学生へ一言

大学の4年間は皆さんの卒業後の40年間のためにあることです。目先のことだけにとらわれ過ぎず、広い視野でいろいろなことにチャレンジし、創造性豊かな人間性をさらに磨いてください。Enjoy your campus life !

農業環境工学分野 農業土木学研究室

鈴木 伸治 教授
SUZUKI Shinji



E-mail アドレス : s4suzuki@nodai.ac.jp

出身地 : 本籍は宮崎県にありますが、茨城県で生まれ、北海道、青森県、宮城県、千葉県、愛知県、タイ、インドネシア、イギリスに住んでいました。

趣味や特技 : 釣り、楽器 (ベース) 演奏

担当授業科目 : 環境科学基礎、環境土壌物理学、土質力学、力学演習 (一)・(二)

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) カブトムシマット作成におけるおが屑の堆肥化に及ぼすもみ殻くん炭の影響に関する基礎的研究
- (2) 土壌の水分量の違いが凍結後の線虫数に及ぼす影響
- (3) 土壌の種類と温度ならびに初期水分量が凍土の不凍水量に及ぼす影響について
- (4) 炭を使用したスピルリナ培養液の pH 調整
- (5) ジブチ共和国ドゥダ圃場における降雨イベントに対する土壌浸潤特性と湛水発生の評価

学生へ一言

国語、算数、理科、社会、英語は受験のためだけにあるものではありません。大学の研究ではそのすべてが必要とされ、大いに生かされます。基礎をしっかりと身につけることにより、乾燥地、寒冷地問わず地球環境で起こっている難しい問題にも、独創性のある方法で対処することができます。

農業環境工学分野 農業土木学研究室

川名 太 教授
KAWANA Futoshi



E-mail アドレス : fk205262@nodai.ac.jp

出身地 : 埼玉県

趣味や特技 : 旅行 (温泉と食べ歩き)、高校野球観戦

担当授業科目 : 一般力学、材料力学、構造力学、社会基盤工学、
力学演習 (一)・(二)

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) 多層弾性理論に基づく舗装の構造解析ソフトウェアの開発
- (2) アスファルト舗装の熱特性値の評価方法に関する検討
- (3) 移動式連続たわみ測定装置を用いた舗装の構造評価手法の検討
- (4) 牡蠣殻を用いた植生ポーラスコンクリートの骨材形状が植物の生育に与える影響
- (5) ジオポリマーコンクリートの海洋構造物への適用性検討

学生へ一言

「挨拶をすること」、「10分前行動をすること」、「相手の立場に立って物事を考えること」など、当たり前のことを当たり前にできるようになってほしい。目先の利益や効率にとらわれず、自分が成長するために必要なことを考えて行動しよう。工学は積み重ねの学問なので、基礎をしっかりと固めてから、いろいろなことにチャレンジしてください。

農業環境工学分野 農業土木学研究室

中島 亨 教授
NAKAJIMA Toru



E-mail アドレス : tn206473@nodai.ac.jp

出身地 : 滋賀県

趣味や特技 : スキューバダイビング、サーフィン、海外旅行

担当授業科目 : 環境科学基礎、測量実習、農地工学、土地改良学

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) リジェネラティブ農法における土壌炭素貯留と温室効果ガス排出削減
- (2) ジャイアントミスカンサス (エネルギー作物) の土壌炭素貯留
- (3) バイオ炭施用による土壌の物理性・化学性・生物性の評価
- (4) 知識に基づく機械学習型 Soil Health モデルの構築

学生へ一言

何事にもポジティブに失敗を恐れずにチャレンジしていれば、それが経験となり自分を成長させてくれます。いろいろなことにチャレンジして有意義で楽しい大学生活を送ってください。

農業環境工学分野 環境資源学研究室

三原 真智人 教授
MIHARA Machito



E-mail アドレス : m-mihara@nodai.ac.jp

出身地 : 兵庫県神戸市

趣味や特技 : 持続可能な開発協力 (Life work)、その他
テニス、海釣り、ゴルフなど

担当授業科目 : 地域資源持続学、地球環境保全学など

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

博士論文から抜粋

- Application of Organic Soil Amendments as Strategies to Improve Soil Physical Properties and Plant Growth in Kabul, Afghanistan
- The Role of Tree Windbreak Systems in Water Conservation in Ovche Pole, North Macedonia
- Advanced Use of Sedimentation Lake for Aqua-Cultivation and Fertilizer Reproduction in Cheung Ek Lake, Cambodia

学生へ一言

地球環境の修復保全に貢献できる国際的な学術研究にチャレンジしてみませんか。研究対象が日本国内であっても、地球上の環境問題を意識できれば、国際的学術研究です。

農業環境工学分野 環境資源学研究室

中村 貴彦 教授
NAKAMURA Takahiko



E-mail アドレス : ntaka@nodai.ac.jp

出身地 : 長崎県 (2005年に長崎市へ編入)

趣味や特技 : 旅行 (趣味と実益を兼ねて)

担当授業科目 : 熱力学、農村計画学、微生物環境学、環境資源学、他

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) 作物の生産性に影響する土壌団粒に関する研究
- (2) マングローブ林域土壌・湛水土壌の物理性に関する研究
- (3) 有機性廃棄物処理とエネルギー回収に関する研究
- (4) 水溶性リン酸の吸脱着に関する研究
- (5) 耕作放棄地対策に関する研究

学生へ一言

食えることが好きなので、お腹いっぱいになるような農作物を食べ続けられるといいなと思います。農作物の生産のためには水と土は必要だと思い続けています。流行に踊らされることなく、自分は何ができるのか、何をやるべきかを考え、上を目指すのでも、前を向いて歩くのでもなく、足下には水と土があるので、いつも下を見つめながら、研究を続けています。ひたむきさも大事だ、と信じています。

農業環境工学分野 環境資源学研究室

岡澤 宏 教授
OKAZAWA Hiromu



E-mail アドレス : hlokazaw@nodai.ac.jp

出身地 : 長野県長野市

趣味や特技 : ドライブ、歩くこと、ドローン、動画製作

担当授業科目 : 水理学、測量学、水利施設工学

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) 間断灌漑による水田からのメタン排出削減と収量評価に関する研究
- (2) バイオ炭の農地施用に伴う Carbon Foot Print の評価
- (3) マルチスペクトルカメラによる農地表層の土壌水分推定に関する研究
- (4) 積雪寒冷地の森林小流域における HEC-HMS の適用に関する研究
- (5) 豪雨を想定した雨庭の雨水浸透能の評価に関する研究

学生へ一言

水田や畑、森林にはたくさんの自然現象が発見できます。フィールド科学を通じて、作物の育て方、環境との調和、資源の管理方法、また大地の恵みを一緒に堪能しよう。新たな「気づき」を通じて、勉強と研究を楽しんでみてください。

農業環境工学分野 環境資源学研究室

トウ ナロン 教授
TOUCH Narong



E-mail アドレス : nt207118@nodai.ac.jp

出身地 : カンボジア

趣味や特技 : 映画観賞、旅行、DIY

担当授業科目 : 微生物環境学、エネルギー工学、電気化学、
環境資源学、海外農業農村開発学 など

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) 食品廃棄物を用いた微生物発電システムの開発
- (2) 電気化学手法を用いた栽培システムの開発
- (3) 籾殻炭を用いたケイ酸カルシウム水和物系吸着材の開発と肥料としての利活用
- (4) メタン発酵におけるエレクトロメタノジェネシスの効果の検証
- (5) 水田土壌におけるメタン放出を低減できる電気化学手法の開発

学生へ一言

最初から「自分にはできない」と決めつけず、今の自分にできることを一つひとつ丁寧に取り組みれば良い。できないと思えばそこで限界が生まれ、できると思えば失敗を恐れずに飛び込んで、どんどん挑戦してみよう。その小さな努力の積み重ねこそが、夢を実現させる力になる。行き詰まりは終わりではなく、新しい始まりの一步です。いつでも気軽に、どんなことでも相談してください。

農業環境工学分野 環境資源学研究室

浅倉 康裕 助教

ASAKURA Yasuhiro



E-mail アドレス: ya208887@nodai.ac.jp

出身地: 東京

趣味や特技: 探検、靴磨き、手ぬぐい集め、ビートボックス

担当授業科目: 地域資源持続学、地球環境保全学など

指導学生の卒業論文題目(抜粋)

- (1) 屋上緑地土壌におけるケイ酸性肥料と生分解性ポリマーを用いた土壌改良資材の保水性・保肥性評価
- (2) 都市部地下鉄駅に滲出する漏水中に含まれるマイクロプラスチックに関する総説研究
- (3) 都市緑化における水利用効率に資する都市部地下鉄の駅に流出する漏水の水質に関する研究
- (4) 鹿児島県奄美大島における湧水・地下水の水質化学的特性

学生へ一言

一番伝えたいことは、ふざけたアイデアこそやる価値がある、という事。学問や研究に限らず、自らの想像力と実行力を信じて、自分だけの人生を創造していこう。研究スタイルは国際開発学科での経験活かした、海外や熱帯・亜熱帯地域でフィールド調査がメイン。自然や地域住民と実際に触れ合い、予期せぬ深い学びや体験を得ることは、どんな人生を歩むにせよ貴重な経験となるでしょう。

スマートアグリ分野 バイオロボティクス研究室

佐々木 豊 教授
SASAKI Yutaka



E-mail アドレス: y3sasaki@nodai.ac.jp

出身地: 山口県

趣味や特技: 狩猟免許(第一種銃猟・わな猟)所有

担当授業科目: 情報基礎(二)、スマート農業入門、計測・制御工学、スマート農業(二) etc.

指導学生の卒業論文題目(抜粋)

- (1) ヘーゼルナッツ栽培を支援するロボットシステム・AR 剪定支援システムの開発
- (2) 水中ドローンによるサンゴ礁の認識・ブルーカーボン評価
- (3) フードロスを活用した昆虫代替タンパク質の生産と、飼料・肥料・食用活用
- (4) Agri-CPS プラントの開発ーフードロス培地を活用したキノコ生産の検討ー
- (5) 中学技術用 STEAM 教育コンテンツの開発

学生へ一言

単なる研究・開発で終わらず、社会実装を最終目標としています。AI・スマート農業・ロボティクスを中心として、昆虫&昆虫食、狩猟・野生鳥獣対策・ハンター、プログラミング・教育・レゴ SPIKE・3D プリンター・マイコンなどに興味があり、一緒に研究・開発と農業 DX に挑戦できる学生募集! 研究室 Web サイト⇒ <https://biorobotics.jp/>

スマートアグリ分野 バイオロボティクス研究室

村松 良樹 教授
MURAMATSU Yoshiki



E-mail アドレス: y-murama@nodai.ac.jp

出身地: 静岡県

担当授業科目: 一般力学、農産加工流通工学、力学演習(一)・(二)、農産加工流通工学、食品工学

指導学生の卒業論文題目(抜粋)

- (1) 解凍条件が鶏肉の温度変化および品質特性に及ぼす影響
- (2) 鶏肉の低温調理特性と加熱温度の関係
- (3) 数種類の方法・条件によるマグロ切り身の解凍
- (4) マイクロ波加乾燥法によるサツマイモチップスの試作
- (5) 3D スキャナーの活用例ー3次元伝熱解析ー

学生へ一言

知的好奇心を満たすよう自ら学ぶ姿勢を持って、能動的に学んでください。また、大学生生活では人生に大きく影響を及ぼす出会いがあるかもしれません。達成感や充足感を持って農大を巣立てるように、充実した学生生活を送ってください。

スマートアグリ分野 バイオロボティクス研究室

川上 昭太郎 准教授
KAWAKAMI Shotaro

E-mail アドレス : taro@nodai.ac.jp

出身地 : 東京都

趣味や特技 : スポーツ観戦、古典芸能鑑賞、チェロ・三線演奏

担当授業科目 : 機械力学、農産加工流通工学、計測・制御工学



指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) ヒートショックがバラ切り花の品質に与える影響
- (2) 青果物輸送におけるドライバー不足改善について —ストックポイントを想定したブロッコリーの鮮度保持輸送—
- (3) モーダルシフトを目指したブロッコリーの氷詰め輸送
- (4) ブロッコリーの置き配における最適な条件選定について
- (5) 腎臓病患者のための低リン化精米

学生へ一言

農大でしか学べないこと、体験できないことなどを一つでも多く学び体験してください。

スマートアグリ分野 バイオロボティクス研究室

左村 公 准教授
SAMURA Isao

E-mail アドレス : is201170@nodai.ac.jp

出身地 : 山口県

趣味や特技 : 野球、サーフィン、読書

担当授業科目 : スマート農業(一)、エネルギー工学、
ものづくり設計製図、機械力学



指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) マイコンを活用した農業用小型ロボットの制御システムの研究開発
- (2) 小型ロボットの機能拡張として雑草防除機の開発
- (3) 粘土種子を用いた小型播種機の研究開発
- (4) プログラミング教材 MESH を用いた自動灌水教材の構築・改良

学生へ一言

これまでの食料生産に加え、再生可能エネルギーの活用、スマート農業、ロボット技術を取り入れた新しい農業の研究開発に取り組んでいます。技術革新だけでなく、地域づくりや制度設計にも力を入れ、多様な研究者や企業と協力しながら、持続可能な未来を創っています。みなさんの若い力が、次の一步を切り拓きます。ぜひ、一緒に挑戦しましょう。

スマートアグリ分野 ジオデータサイエンス研究室

島田 沢彦 教授
SAWAHIKO Shimada



E-mail アドレス : shima123@nodai.ac.jp

出身地 : 大阪府高槻市

趣味や特技 : スキー、キャンプ、旅

担当授業科目 : 環境リモートセンシング工学、環境情報学、
データサイエンス基礎、地理情報学演習、
AI・データサイエンス応用

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) 群馬県板倉町における Sentinel-2 画像を用いた秋キャベツの収量予測
- (2) 砧公園におけるアブラコウモリの飛翔活動と気象条件の関係
- (3) 横浜市田奈町の水田圃場における UAV 画像を用いた水稻の生育モニタリング
- (4) ジブチにおける農園立地環境の農業ポテンシャル評価
- (5) ロシア・オホーツク海沿岸域におけるディープラーニングを用いた MODIS の土地被覆分類

学生へ一言

人生の晩年で人が後悔することには「もっとチャレンジしておけばよかった」「勉強しておけばよかった」が入っているとのこと。その解消策は、まさにこの4年間の学生生活(+2+3年の大学院もありますよ)で、課題を見据え戦略と工夫をもって挑戦することでしょう。成功の反対は失敗ではなく挑戦しないこと。皆さんの挑戦を応援しています。

スマートアグリ分野 ジオデータサイエンス研究室

関山 絢子 教授
SEKIYAMA Ayako



E-mail アドレス : a3sekiya@nodai.ac.jp

出身地 : 東京都

趣味や特技 : 美術館、博物館、文化財の見学 (最近の趣味)

担当授業科目 : 情報基礎 (一)、測量学、環境情報学、
AI データサイエンス応用、地理情報学演習

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) 千葉県茂原市一宮川における氾濫特性を考慮した推奨避難行動の提案
- (2) ジブチにおける LandSat-8 衛星画像を用いた機械学習による地質分類
- (3) ドローンを用いた茶葉の品質と生育状態のモニタリング
- (4) 光環境がペピーノの生育に及ぼす影響
- (5) モンゴル・ホスタイ国立公園におけるアカシカの生息地選択と資源利用

学生へ一言

皆さん世代の感受力、精神力、行動力など様々な“ちから”は、新しい経験や未知の領域に踏み出すことで、飛躍的に磨かれると思います。大学生活の短い時間では、手を抜いても、心身ともに打ち込んでみてもさほど気付かないかもしれません。しかし、皆さんが実践・実働をとおして得た経験は、一生涯の教養と知性になるはずです！

スマートアグリ分野 ジオデータサイエンス研究室

平山 英毅 助教
HIRAYAMA Hidetake



E-mail アドレス : hh207501@nodai.ac.jp

出身地 : 千葉県市川市

趣味や特技 : ウォーキング

担当授業科目 : 情報基礎 (一)、AI・データサイエンス応用ほか

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) CS 立体図と深層学習を用いた地すべり潜在箇所抽出モデルの構築
- (2) 360° カメラを用いた 3D モデルによる広葉樹胸高直径計測手法の開発
- (3) 砧公園における RTK を用いた微地形の調査
- (4) 砧公園における環境と微地形の関係

学生へ一言

研究活動を通じて得られる野外調査や室内解析での経験は、皆さんの将来への自信に繋がります。仲間と協力すれば一人では得られないような大きな成果にも繋がります。研究も遊びもバランスよく楽しみ、充実した大学生活を送ってください。困ったときは、いつでも相談に来てください。

地域環境科学部教養分野 数学研究室

江上 親宏 教授

EGAMI Chikahiro



E-mail アドレス : ce205380@nodai.ac.jp

出身地 : 京都府舞鶴市

趣味や特技 : JFA 公認 D 級コーチ、サッカー 4 級審判員、
スポーツ観戦

担当授業科目 : 数学・数学演習、応用数学・応用数学演習、
統計学・統計学演習、力学演習

指導学生の卒業論文題目 (抜粋)

- (1) BZ 反応振動子系における Delayed Feedback の作用に関する研究
- (2) 微生物による脂肪蓄積の数理モデル
- (3) テンサイそう根病流行の地温・土壌水分依存モデル
- (4) 果樹の害虫防除に向けた昆虫個体群の構造モデルの解析

学生へ一言

数学・統計学の講義をとおして、「科学と向き合う姿勢」を皆さんに伝えて行きたいと考えています。大学生活では、良き友を見つけ、頭と体と心をしっかり鍛えて、自分の技術と創造力で社会や地球環境に貢献するという志を抱き続けてください。

5. 2026年度 生産環境工学科学級担任一覧

学年	教 員 名
1年次	鈴木伸治・川名 太・三原真智人・佐々木 豊・トウ ナロン・浅倉康裕 川上昭太郎・島田沢彦・平山英毅・江上親宏
2年次	渡邊文雄・川名 太・中島 亨・中村貴彦・岡澤 宏・村松良樹 左村 公・関山絢子
3年次	渡邊文雄・鈴木伸治・川名 太・中島 亨・三原真智人・中村貴彦 岡澤 宏・トウ ナロン・浅倉康裕・佐々木 豊・左村 公・村松良樹 川上昭太郎・島田沢彦・関山絢子・平山英毅・江上親宏
4年次	渡邊文雄・鈴木伸治・川名 太・中島 亨・三原真智人・中村貴彦 岡澤 宏・トウ ナロン・浅倉康裕・佐々木 豊・左村 公・村松良樹 川上昭太郎・島田沢彦・関山絢子・平山英毅・江上親宏

○学級担任の主な業務

各学年の学級担任は、学生が入学してから卒業までの期間に充実した学生生活を送れるよう、以下のような学生の指導や支援を行っている。

- ・成績相談や進級判定および卒業に関する対応
- ・休学願・退学願・復学願・学費延納願，等の提出に関する相談や提出後の手続き
- ・年度始めのガイダンス

なお、年度始めのガイダンスは各学年ごとに実施し、その内容は次の通りである。

- ① 1年次生については、入学式後の学科別ガイダンスで、学生生活にかかわるすべての事項（教育システム、学生生活面、図書館利用、JABEEプログラム関係、就職・進学情報、農工会の役割など）について説明を行う。
- ② 2年次生については、後期の基礎実験の研究室から始まる教育コース選択についての説明、進級条件の再確認、卒業生の進路情報の提供による意識付け、JABEEプログラムの内容と履修に当たっての注意事項などについての指導を行う。
- ③ 3年次生については、進級条件の指導や就職活動ならびに公務員対策講座についての情報提供、有意義な研究室活動の取組み、JABEEプログラム履修希望生への手続き情報の提供などを行う。
- ④ 4年次生については、就職活動に関する大学・学科での取組みなどの情報提供ならびに卒業論文作成に関する注意事項、JABEEプログラム履修生の成績やポートフォリオ作成などについての指導を行う。

Ⅱ コースの紹介と履修

1. 教育コースの選択

生産環境工学科では図Ⅱ-1に示すように「生産環境コース」と「技術者養成コース」の2つの教育コースを用意しており、本学科の学生は2年間の共通教育課程の後、3年次進級時にいずれかのコースを選択しなければならない。

この2つの教育コースの詳細内容については後述する通りである。「生産環境コース」を修了するためには文部科学省の定める卒業要件である124単位の取得が求められる。「技術者養成コース」においては、(社)日本技術者教育認定機構(JABEE)が別途定める修了要件を満たすことが求められる。「生産環境コース」では修了に必要な科目の評価がすべて「可」であってもよいが、「技術者養成コース」では指定科目については評価の内容が問われる。

このように、「技術者養成コース」の修了要件は「生産環境コース」よりも若干厳しい形となっている。「技術者養成コース」修了者は、卒業後には「修習技術者」という国家資格が取得できるというメリットがある。

1年次		2年次	3年次	4年次	取得資格
入 学	【共通】 ・専門基礎科目の習得 ・教養的科目の習得 ・就職への動機付け ・研究室の選択 ・測量士補資格取得		【生産環境コース】 ・専門科目の習得 ・卒業論文の作成 ・卒業要件の達成	卒 業	・学 士
			【技術者養成コース】 ・専門科目の習得 ・卒業論文の作成 ・卒業要件の達成 ・JABEE 修了要件の達成	卒 業 ・ 修 了	・学 士 ・測 量 士 補 ・修 習 技 術 者

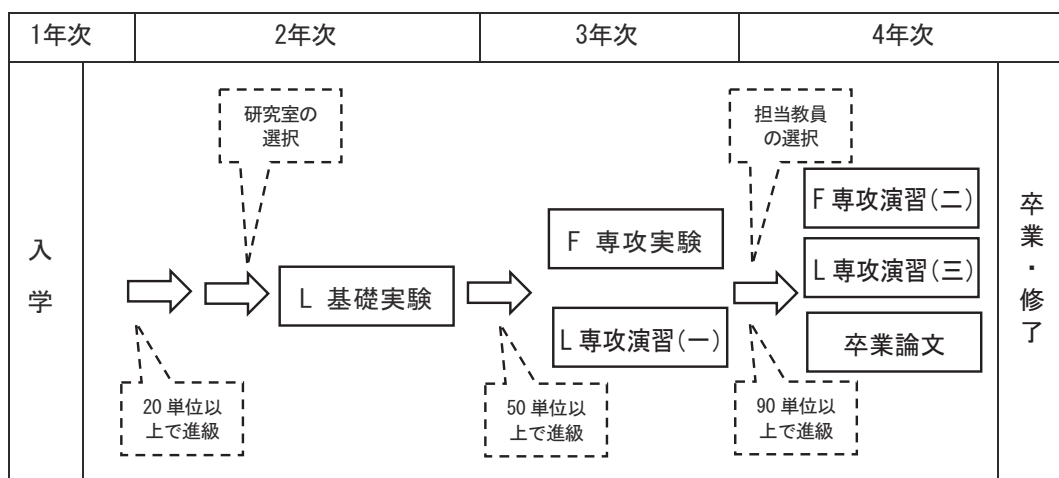
図Ⅱ-1 教育コース選択の概要

2. 実験・演習科目の履修

「生産環境コース」および「技術者養成コース」の両コースとも、4年次で卒業論文を作成するために図Ⅱ-2に示すように2年次後期より4年次までにおいて、必修科目である基礎実験・専攻実験・専攻演習(一)・専攻演習(二)・専攻演習(三)の科目を履修しなければならない(授業内容については、「シラバス」を参照すること)。

また、基礎実験・専攻実験における研究室の選択、そして専攻演習（二）・専攻演習（三）と卒業論文における教員の選択の際には、いずれも希望者数に偏りが生じないように調整を行っている。なお、2年次後期の基礎実験における研究室選択以降は、原則として研究室の変更は認めていない。このため、各研究室の内容について本ガイドを熟読することが求められる。併せて、直接研究室を訪問して研究活動や卒業生の進路状況などを所属教員等から説明を受け充分理解し、研究室選択を行うことが望ましい。

なお、本学では節制度と呼ばれる進級制限を設けており、2年に進級するときには20単位以上、3年に進級するときには50単位以上、4年に進級するときには90単位以上の規定があり、これに達さない場合は進級できないことになっている。計画的な単位習得に心がけること。



※原則として研究室の変更は認めない

図Ⅱ-2 実験・演習科目の履修フロー

3. 履修方法

各学科での履修に当たっては「学生生活ハンドブック」と「履修のてびき」に詳細が掲載されているが、その基本を次に示す。また、生産環境工学科で開講されているカリキュラムを表Ⅱ-1に示す。

①履修計画

1年間の履修計画を立て履修登録をしなければならない。そのために、授業科目配当表と講義要項（シラバス）を熟読しカリキュラムの概要を把握すること。

②卒業単位数と必修・選択科目

各授業科目の単位数は、授業の方法に応じて異なり当該授業による教育効果、授業時間外

に必要な学習等を考慮して決められている。すなわち、講義科目の2単位とは90分授業（週1コマという）を15回実施するもので、これに対して、実験・実習科目は180分授業（週2コマ）を15回実施するものである。

卒業に必要な総単位数は124単位で、このうち必修科目は75単位（総合教育科目7単位、外国語科目8単位、専門教育科目60単位）、選択必修科目は6単位以上、選択科目は43単位以上を取得しなければならない。選択科目は、専門教育科目から24単位以上取得する必要があるため、専門性を幅広く学習するとともに将来の進路や資格取得などを考えて卒業要件を満たすように履修しなければならない。

③履修登録と単位数の制限

履修登録に当たっては1年間に履修できる単位数の制限があるので注意しなければならない。すなわち、1年間に履修登録できる単位数の上限は44単位（他学科・他学部聴講、英語専門、全学共通科目を含むが、教職課程科目および学術情報課程科目は除外）で、さらに各学期（前期・後期）に履修できる単位数の上限は22単位（他学科・他学部聴講、英語専門、全学共通科目を含む）である。

なお、他学科・他学部聴講は在学中に16単位まで履修が可能（実験・実習・研修科目、栄養科学科専門教育科目ならびに上級学年配当科目は履修できない）で、卒業要件単位に加えることができる。

④分野別選択科目

2年次からの研究室別所属で専門教育を受けるに当たって、各分野単位での選択科目の履修モデルを表Ⅱ-2に示す。この履修モデルに従って1年次より希望分野での履修計画を立てる必要がある。このことは研究室での研究活動や卒業論文ならびに進路指導を受ける上で重要な因子となるので注意しなければならない。

⑤履修科目の評価

履修登録した科目について授業回数の2/3以上の出席を前提として試験やレポートによって評価が与えられる。評価の種類は、S（秀）・A（優）・B（良）・C（可）・D（不可）であり、出席回数が2/3に満たない場合や登録科目の試験を受けなかった場合にはF（未評価）となる。F（未評価）となった科目は次年度において再履修となる。不合格の場合は次年度以降に再履修となる。なお、病気等の理由により試験を受けられなかった者は追試験を受けることができる。ただし、追試験を受けるためには、教務課に欠席届を提出する必要があり、追試験で不合格になった者は、次年度以降に再履修となる。

評点は原則として、S（秀）は90点以上かつ履修者の5%以内、A（優）が80点以上、B（良）が70点以上、C（可）が60点以上であるが、各科目での詳細な評価方法についてはシラバ

スに記載されているので熟読すること。

⑥卒業論文の作成と口頭発表

卒業論文の提出締め切り日は4年次年度の1月末日である。卒業論文の成果の確認と、発表能力の向上を目的として、1月中旬～下旬に卒業論文の公開口頭発表会を開催する。発表内容については各会場で審査する複数の教員によって評価され、卒業論文の最終評価の参考とされる。

表Ⅱ-1 必修科目および選択科目一覧

分野	区分	授業科目	単位数	開講期				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
総合教育科目	全学共通科目	必 東京農業大学入門	2	F				
		必 情報基礎(一)	2	F				必
		必 情報基礎(二)	2	L				技必
		必 共通演習	1	T				
		データサイエンス基礎(一)	1		F			
		データサイエンス基礎(二)	1		F			
		スポーツ・レクリエーション(一)	1	F				必
		スポーツ・レクリエーション(二)	1	L				必
		特別講義(一)	2					
		特別講義(二)	2					
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
	キャリアデザイン(一)	1		F				
	キャリアデザイン(二)	1		L				
	外国語科目	全学共通科目	必 英語(一)	2	F			
必 英語(二)			2	L				
必 英語(三)			2		F			
必 英語(四)			2		L			
学部共通科目		実用英語(一)	2	F				
		実用英語(二)	2	L				
		実用英語(三)	2			F		
		実用英語(四)	2			L		
		中国語(一)	2	F				
		中国語(二)	2	L				
ドイツ語(一)	2	F						
ドイツ語(二)	2	L						
専門教育科目	学科学習科目	必 哲学・倫理学	2	F				
		必 歴史学	2	L				
		必 文学	2	L				
		必 日本国憲法	2		L			必
		必 社会学	2		L			
		必 経済学	2			F		
		必 生物学	2	F				理必
		必 化学	2	F				理必
		必 地学	2	F				理必
		必 物理学	2	L				理必
		必 微生物環境学	2	L				理
		必 景観論	2	L				
		必 源流文化学	2		F			
		必 統計学	2		F			
		必 きのこ学	2		F			
	必 日本の森林文化	2		L				
	必 芝生論	2			F			
	必 群集生態学	2			L			
	必 技術者倫理	2			L			
	必 海外農業農村開発学	2				F	農	
	学科学習科目	必 数学	2	F				
		必 数学演習	2	F				
		必 一般力学	2	F				理
		必 材料力学	2	L				技
		必 熱力学	2	L				理
		必 応用数学	2	L				
		必 応用数学演習	2	L				
		必 生産環境工学体験実習	4	T				農必
		必 環境科学基礎	2	L				
		必 環境土壌物理学	2		F			理
		必 エネルギー工学	2		F			農
		必 測量学	2		F			農必
		必 測量実習	2		F			農
		必 構造力学	2		F			理
		必 スマート農業入門	2		F			農
		必 計測・制御工学	2		L			技
		必 農産加工流通工学	2		L			技
		必 機械力学	2		L			技
		必 統計学演習	2		L			
		必 土質力学	2		L			理
		必 水理学	2		L			理
		必 AI・データサイエンス応用	2		L			理
		必 基礎実験	2		L			技
		必 力学演習(一)	2		F			理
		必 地域資源持続学	2		F			農
必 地形地質学		2		F			理	
必 電気化学		2		L				
必 電気・電子工学		2		F			技	
必 地球環境保全学		2		L			農	
必 力学演習(二)		2		L			理	
必 ものづくり設計製図	2		L			技		
必 作物生態学	2		L					

表Ⅱ-1 必修科目および選択科目一覧（続き）

令和6年4月改正

分野	区分	授業科目	単位数	開講期				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
専門教育科目	学科専門科目	農地工学	2			F		農
		環境物理学	2			F		理
		流域水文学	2			F		理
		社会基盤工学	2			F		技
		土木施工法	2			F		
		環境資源学	2			F		
		スマート農業(一)	2			F		技
		環境情報学	2			F		技
		地理情報学演習	2			F		
		地水環境工学	2			L		農
		水利施設工学	2			L		農
		農村計画学	2			L		農
		土地資源管理学	2			L		農
		スマート農業(二)	2			L		技
		環境リモートセンシング工学	2			L		理
		食品工学	2			L		
		河川工学	2				F	農
	専門実用科目	木材加工(実習を含む。)	2		F			技必
		生物育生	2		F			技必
		金属加工(実習を含む。)	2		L			技必
		電気(実習を含む。)	2		L			技必
	総合化科目	機械(実習を含む。)	2			F		技必
		必 専攻実験	2			F		農必
必 専攻演習(一)		2			L		農	
生産環境工学特別演習		2			T			
必 専攻演習(二)		2				F	農	
必 専攻演習(三)	2				L			
必 卒業論文	4				T			

卒業要件単位数	
授業科目区分	必要単位数
必修科目	75単位
選択必修科目【注1】	6単位
選択科目 (a) 専門教育科目	24単位
(b) 総合教育科目・外国語科目【注2】	19単位
合計【注3】	124単位以上

卒業要件単位数について

【注1】 選択必修科目

- 1 人文科学分野科目は3科目中から1科目を選び修得すること。
- 2 社会科学分野科目は3科目中から1科目を選び修得すること。
- 3 自然科学分野科目は4科目中から1科目を選び修得すること。

【注2】 選択科目(b)

- 1 他学部聴講・他学科聴講・特別プログラム(リメディアル科目を除く)で修得した単位を含む。ただし、合計して30単位を上限とする。(他学部聴講・他学科聴講の履修制限単位数は16単位)
- 2 選択必修科目のうち、卒業要件の必要単位数を超えて修得した単位を含む。
- 3 選択科目(a)のうち、卒業要件の必要単位数を超えて修得した単位を含む。

【注3】 卒業要件単位数合計

- 1 専門実用科目は教職課程履修者のみ履修することができる。修得した単位は卒業要件単位に含めない。

《その他注意事項》

外国語科目の初修外国語科目は、在学中1ヶ国語のみ履修することができる(複数の外国語の履修は認めない)。

表の見方

○開講期欄の「F」は前学期配当科目、「L」は後学期配当科目、「T」は通年配当科目を表す。

○区分欄の「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目を表す(空白は選択科目)。

○教職欄の「理」「技」「農」は教職の「理科」「技術」「農業」の教職に関する科目を表す。

○教職欄の「必」は教職必修科目を表す。

表Ⅱ-2 生産環境工学科 履修モデル

コース	専門分野 (農業土木学)	専門分野 (環境工学)	専門分野 (バイオロジクス)	専門分野 (ソフトウェア工学)	公務員	進 学	教員(農業)	教員(理科)	教員(技術)
開講 区分	持続的な水田や畑を農機 具、畜産物、バイオマス を確保し、自然と調和し た安全安心な生活空間 を形成するための技術を追 究する。	地域を形成する水、大気、 土壌、畜産物、バイオマス を確保する。農業者、農業 農村工学的な視点から、食 料生産の持続的かつ安全 な生産のための教育・研 究を行う。	フードチェーンを対象とし たスマート化について、機 械、ロボット、AI、データサイエンス、 IoT、ICT、DNAなどを活 用して食料生産、技術管理 を実現することを目指す。	地域課題や生産フィールドを 対象としたスマート化につ いて、AI、データサイエンス、 IoT、GIS、センシング、 ドローンを活用して食料生産 を改善することを目指す。	農業土木と農業機械専門 知識の活用を軸とし、 就職の技術開発と学術 的の育成を目指す。	農業土木と農業機械専門 知識の活用を軸とし、 就職の技術開発と学術 的の育成を目指す。	農業科の教員を目指す ものな専攻を履修する人 物の育成を目指す。	理科の教員を目指す	技術科の教員を目指す
導入科目	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)	データサイエンス基礎(一) データサイエンス基礎(二)
スポーツ 関係科目									
就職 準備 科目	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)	キャリアデザイン(一) キャリアデザイン(二)
専攻 必修科目	実用英語(四)	実用英語(四)	実用英語(四)	実用英語(四)	実用英語(四)	実用英語(三) 実用英語(四)	実用英語(四)	実用英語(四)	実用英語(四)
人文科学 分野科目	哲学・倫理学	歴史学	歴史学	歴史学	歴史学	歴史学	歴史学	歴史学	歴史学
社会科学 分野科目	社会学	社会学	社会学	社会学	社会学	社会学	社会学	社会学	社会学
自然科学 分野科目	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学	物理学 地学 生物学
専門共通 科目	技術者倫理 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学	技術者倫理 微生物環境学 海外農業農村開発学
専門基礎 科目	環境科学基礎 力学演習(一) 力学演習(二)	環境科学基礎 地形地質学 電気化学 地球環境保全学	電気・電子工学 ものづくり設計製図 作物生態学	環境科学基礎 地理情報学演習 作物生態学	技術者倫理 微生物環境学 環境科学基礎 地形地質学 作物生態学	作物生態学	地形地質学 力学演習(一) 力学演習(二)	地形地質学 力学演習(一) 力学演習(二)	ものづくり設計製図 電気・電子工学
専門応用 科目	農地工学 環境物理学 流域水文学 社会基盤工学 土木施工法 水環境工学 河川工学	流域水文学 環境情報学 環境情報学演習 地水環境工学 農地工学 河川工学	スマート農業(一) スマート農業(二) 食品工学	環境情報学 地理情報学演習 農地工学 流域水文学 地水環境工学 社会基盤工学 土木施工法 水利施設工学	農地工学 環境物理学 環境情報学 環境情報学演習 流域水文学 地水環境工学 社会基盤工学 土木施工法 水利施設工学 スマート農業(一)	農地工学 環境物理学 環境情報学 環境情報学演習 流域水文学 地水環境工学 社会基盤工学 土木施工法 水利施設工学 スマート農業(一)	環境物理学 流域水文学 環境情報学 スマート農業(一) スマート農業(二)	環境物理学 流域水文学 環境情報学 スマート農業(一) スマート農業(二)	環境情報学 社会基盤工学 スマート農業(一) スマート農業(二)
専門実用 科目									木材加工(製図及び実習を含む) 生物育成 金属加工(製図及び実習を含む) 電気工(実習を含む) 機械(実習を含む)

※必修科目は含んでいない。ただし、選択必修科目は含まれている。

4. 生産環境コース

(1) コース概要

地域環境科学部の理念は「人と自然の共生、『地域らしさ』を創る」である。人々の暮らしは古くから、水と緑、文化、そして活力に満ちた地域に育まれてきた。本学部は、この潤いのある人々の暮らしを支える、科学技術、地域政策、環境計画、そして地域づくりへの市民参加などに関する教育・研究を行っている。

生産環境工学科は、長年培ってきた農業工学技術を利用して「生物生産を支援するエコ・テクノロジー」の開発・考究・利用を基本テーマとしており、省資源、省エネルギー、リサイクルなどを導入した循環型社会の創造を目指し、地域から地球規模までの環境保全を実現するための新しい試みが展開できるような教育・研究を行っている。

こうした中で生産環境工学科の「生産環境コース」は、「土」、「水」の文化と農業がもつ多面的機能および地域環境保全機能を意識し、国内外の農業・農村をとりまく諸問題を工学的、環境科学的に解決する能力と素養を身につけた、幅広い視野を持った人材を育成することに主眼においている。また、人類の生存と発展を支える多様な素養を修得することを目指している。

なお、本コースでは、カリキュラム表（表Ⅱ-1）に掲載された開講科目のうち、必修科目75単位、選択必修6単位および選択科目43単位のあわせて124単位以上を取得することによって卒業が認められる。ただし、生産環境工学科に設置されたカリキュラム以外にも、他学部・他学科の講義科目が聴講でき、そこで取得した単位は決められた範囲内で卒業要件の選択科目の単位に加えることができる。

また、生産環境コースに所属する学生は、授業とは別に希望する研究室が行うフィールドレベルでの農業や地域に密着した研究活動を行うことができる。こうした活動は、研究デザイン能力・資質の向上を狙ったもので、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力（研究成果を収穫祭の文化学術展で発表）の育成に役立っている。そして、そこで培われた能力は卒業論文の作成や発表、学術論文の学会発表などへとつながっている。研究室活動では、授業以外に所属教員からより深い専門教育を直接受けることができるばかりでなく、研究活動を通して人的交流の機会も得られる。また、卒業後の進路選択においても有益な教育システムとなっている。

(2) 学習・教育目標

生産環境コースでは、2つの分野と4つの研究室がそれぞれの専門科目を受け持ち、講義科目および実験・実習・演習を通して、より実践的な教育に力を注いでいる。これは、東京

農業大学の「実学主義」を原点とする教育であり、社会の現実を直視した実証研究を基礎に置いた実用的かつ実際的な学習・教育を目指すものである。そして、本学の教育理念である「人物を畑に還す」ことを念頭に置いて、卒業後は地域のリーダーとなる人材育成・実践的教育を行っている。

分野別の教育目標は以下の通りである。

①農業環境工学分野

食料生産を担う国内外の農業・農村地域を対象とした循環型社会の形成における環境問題に対応しうる農業生産基盤の維持管理，環境資源・エネルギーの持続的な利用，及び地域環境の修復・保全に関する教育・研究を行う。

②スマートアグリ分野

フードチェーン・地域環境・生産フィールドを対象としたスマート化について，AI・データサイエンス・IoT・ICT・DX・機械・ロボティクス・ドローン・GNSS・センシング・ビッグデータ・フィールドワークに関する教育・研究を行う。

5. 技術者養成コース

(1) 技術者養成コース設置の経緯

本学科では、教育改善の一環として2003年に生産基盤コース（現 技術者養成コース）を開設した。このコースは、2004年5月に「農業土木プログラム」として日本技術者教育認定機構（JABEE, Japan Accreditation Board for Engineering Education）の審査を受け、農業土木技術者を育成するための適切な教育プログラムであることが国際的に保障された。2008年の継続審査を経て、2014年には農業土木に加えて農業機械も含めた幅広い農業工学関連技術者の育成を目標とし、プログラム名称を「農業工学プログラム」に変更して、その枠組みを拡大した。その後、2021年の継続審査を経て現在に至っており、現行のプログラムは2026年度までの認定期間を有している。

※ JABEE とは・・・

JABEE は、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認証を行うため1999年11月に設立された非政府団体である。JABEEの目的は、統一的基準に基づいて理工農学系大学における技術者教育プログラムの認定を行い、技術者の標準的な基礎教育と位置付け、国際的に通用する技術者養成の基盤を担うことを通じて、わが国の技術者教育の国際的な同等性を確保し、その成果を社会と産業の発展に寄与することである。なお、JABEEによると、「技術者」とは「数理学、自然科学および人工科学の知識を駆使し、社会や環境に対する影響を予見しながら資源と自然力を経済的に活用し、人類の利益と安全に貢献するハード・ソフトの人工物やシステムを研究・開発・製造・運用・維持する専門職業」と、非常に広い範囲に定義している。このような技術者を教育・育成するために、JABEEが認定する教育プログラムにおいては、以下に示すような知識・能力の修得が要求されている。

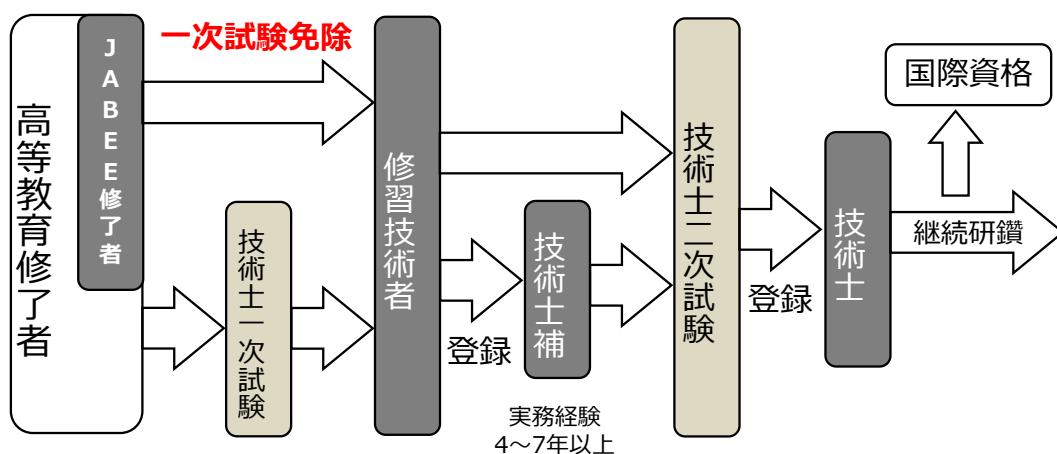
- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に対する理解
- (c) 数学および自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 該当分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

(2) 技術者養成コース修了者への期待

日本の技術者資格の最高峰は技術士である。技術士とは、技術士法に基づく国家試験に合格した者に与えられる権威のある国家資格で、この資格を有する者は科学技術に関する高度な応用能力を有する技術者として社会的に認められ、その技術によって設計や施工、管理の責任者となり、社会で活躍することが期待される。技術士資格の取得には、従来、第一次試験に合格した後、指定登録機関への登録を行うことで技術士補となり、4年間の実務経験を経て、第二次試験に合格する必要があった。現行の技術士法では、文部科学大臣が認定する大学等の教育課程において JABEE が認定する技術者教育プログラムを履修し、修了することは技術士第一次試験に合格する能力を有することと同等とみなされ、第一次試験が免除され「修習技術者」として実務修習に入ることができるようになっている。技術士資格取得までの流れは、図Ⅱ-4 に示す通りである。

本技術者養成コース修了者は、農業工学に関する基礎・専門教育を修得している者として、また自ら学習し自己の能力・資質を開発することができる者として客観的に高い評価がなされることになり、農業工学関連の公務員（国家、地方）および独立行政法人、土木・建設関連企業（ゼネコンやコンサルタントを含む）、機械関連企業、環境関連企業などの幅広い分野での活躍が期待され、就職決定時に有利な評価を受けられる。

また、本コース修了者は、世界に通じる技術者養成教育を受けたことが保証される。日本をはじめ各国では、独自の技術者資格制度を有しており、これらの技術者資格を修得するには試験を受けなければならない。しかし受験に際しては一定の資格が要求されており、これを満足しなければならない。本コース修了者はこれらの受験資格を得ることが国際的に保証されている。つまり、本コース修了者は日本のみならず、アメリカ、イギリス、ドイツなどの技術者資格試験を受験することが可能になる。



図Ⅱ-4 技術士資格取得までの流れ

(日本技術者教育認定機構・日本技術士会「技術士への道」2013 より)

(3) 技術者養成コースの教育理念

技術者養成コースにおける教育理念は、地域環境ならびに農村計画、農村環境整備に関する計画レベルでの農業工学関連の素養や技術に加えて、土木材料、設計施工、水利施設や灌漑排水、農業機械など農業工学に関する実施レベルにおいて必要となる素養や技術の修得によって、卒業時には自ら学習し自己の能力と資質を開発することができる者として高く評価できる人材を育成することにある。

(4) 技術者養成コース アドミッションポリシー

技術者養成コース（JABEE コース）では、生産環境工学科のアドミッションポリシー①から⑤に挙げた素養を身につけている者の中でも、特に農業生産及びその環境保全に関心があり、国内だけではなく海外でも通用する技術者を目指す者で、農業工学関連の公務員（国家、地方）および独立行政法人、土木・建設関連企業（ゼネコンやコンサルタントを含む）、機械関連企業、環境関連企業などでの活躍を志す者を求める。また、1、2年次の配当科目も含め適切な履修計画に基づいて受講している必要があり、入学時より自己研鑽を怠らずポートフォリオ（予習復習を含む学習の記録）を作成していることが求められる。

(5) 技術者養成コースの学習・教育到達目標

技術者養成コースでは、農業生産性の向上のみならず、地域の環境・資源、生態系およびエネルギーに配慮した計画・設計・施工・運営管理を行える技術者を育成すべく、コース履修者に対して次に示す（A）～（E）の学習・教育到達目標を定めている。すなわち、本コースでは、農業工学関連技術の社会的位置付けや技術者として必要な倫理を理解した上で農業工学関連技術の基礎知識を学習し、これをもとに専門知識を習得し、さらに深い専門知識を習得した上で、実証的研究を通して実践能力とコミュニケーション能力を習得するという、一連の学習・教育到達目標を設定している。ここで履修者は、これらの指定された目標について学習し、それぞれに設定された必要な学習水準をすべて達成することが求められる。同時に教員は、履修者がこれらの目標水準を達成するために必要な教育を行うとともに、社会や学生の要求に配慮した継続的な教育改善を行うことを目指している。なお、これらの学習・教育到達目標は前述した JABEE が要求する（a）～（i）の基準を考慮しながら、本コースの修了者の持つべき能力として設定したものである。

以下に技術者養成コースにおける学習・教育到達目標について説明する。

(A) 人類社会における技術の位置付けと技術者としての社会的責務および倫理観を習得する

食料、「環境」、「資源」、「エネルギー」などの地球的規模の諸問題を解決するために必要とされる農業工学関連技術の人類社会での位置付けを認識し、農業工学関連技術が人類社

会および地球環境に及ぼす効果や影響について多面的に考える能力を習得するとともに、技術者としての社会的責務と倫理観を習得する。

(B) 農業工学関連技術の基礎知識を習得する

農業工学系技術者は、数学、情報技術、自然科学等に関する十分な知識を有し、これらを人類の幸福のために活用することが求められる。ここでは、そのための基礎知識として、数学、生物、化学、情報ならびに農業工学関連技術の基礎知識としての力学系科目などを習得する。

(C) 農業工学関連技術の専門知識を習得する

農業は土と水に大きく依存しており、食料生産の安定と安全・安心、人類の生存環境創造と維持のために「土」と「水」に関する十分な知識と理解が必要である。また、食料生産と人類の生存環境を取り扱う農業工学系技術者には、農地や水利にかかわる現場での計測技術、地域資源の有効利用と環境に配慮した整備計画、持続可能な生産基盤整備、自然環境に配慮した施設整備に関する知識が必要である。ここではこれらに関する専門知識を習得する。

(D) 主要な専門知識を習得する

この学習・教育到達目標では、農地・農村の計画・評価に関する主要専門知識の習得のためのサブコース (D1) と農村・都市部における設計・施工に関する主要専門知識の習得のためのサブコース (D2)、環境保全や人間活動に配慮した農業生産システムに関する主要専門知識の習得のためのサブコース (D3) を配置している。技術者養成コース履修者は、いずれかのサブコースを選択してより深い主要な専門知識を習得する。なお、各サブコースの特徴を表Ⅱ-4に示す。

表Ⅱ-4 各サブコースの特徴

コース	特徴
D1	農地・農村のもつ多面的機能や環境保全のための技術とその評価、とくに農村地域における生活環境や環境汚染の実態解明と環境管理に関する知識を習得する
D2	農村・都市地域における生産環境の整備に際して、地域資源の活用、資源のリサイクル、環境に配慮した生産手段の整備および関連施設の設計や新資材の開発に関する知識を習得する
D3	農村・都市地域における、環境保全や人間活動に配慮した農業生産システムの技術開発、設計・評価に関する知識を習得する

(E) 総合的デザイン能力を習得する

技術に対する社会的要求は現場にあることから、現場での技術的諸問題点を明確化しその解決方法を確立するために科学を素養とした分析能力と論理的思考に基づくコミュニケーション能力の習得が要求される。そして、現場での問題点を解決するためには、習得した基礎知識と専門知識を現場にて実践する能力が必要となる。ここでは、現場での問題把握から

解決に至るまでの実践的手法を自主的・継続的に学習することを通じて総合的デザイン能力を習得する。

以上の学習・教育到達目標に関連する科目は表Ⅱ-5に示す通りである。各学習・教育到達目標の達成度は、関連科目群の達成度により評価される。具体的には各科目の成績を「秀(S)」4点、「優(A)」3点、「良(B)」2点、「可(C)」1点とし、科目群ごとの平均値を総合評価値とする。各学習・教育到達目標の達成は、この総合評価値とそれぞれの目標ごとに設定された条件により評価する。なお、技術者養成コースの履修者は、選択したコースに関して、表Ⅱ-5に掲げる全ての単位を修得しなければならない。各学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目と、技術者養成コースで定める他の科目との関係は、表Ⅱ-6および図Ⅱ-5(a)～5(e)に示す通りである。

表Ⅱ-5 技術者養成コース履修科目および単位数一覧

○は卒業要件となる必修科目，△は選択必修科目

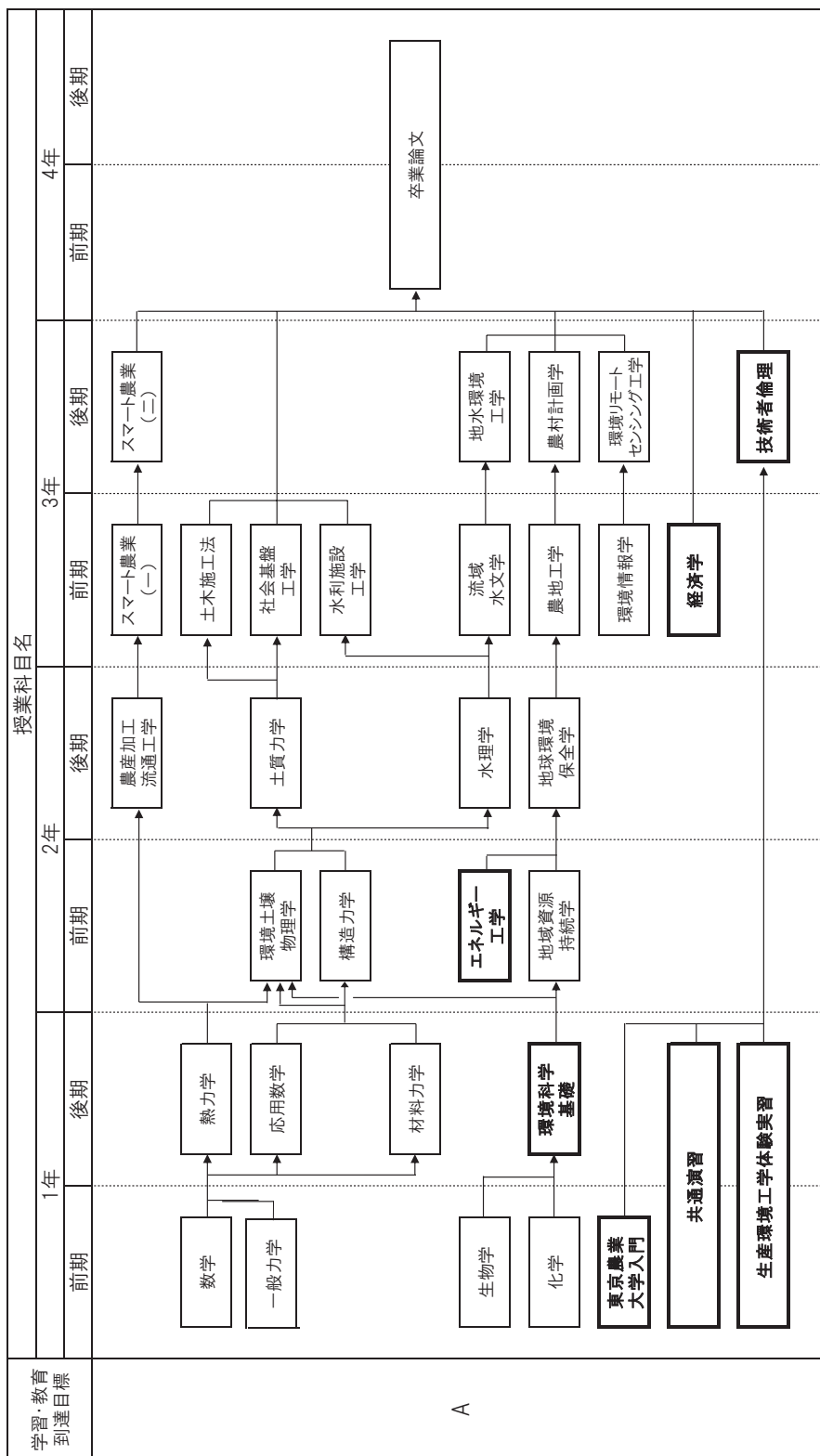
学 年	前 期			後 期				
	授業科目名	D1	D2	D3	授業科目名	D1	D2	D3
1年次	○英語（一）	2	2	2	○英語（二）	2	2	2
	○情報基礎（一）	2	2	2	○情報基礎（二）	2	2	2
	○東京農業大学入門	2	2	2				
	○共通演習（通年）	0.5	0.5	0.5	（共通演習）	0.5	0.5	0.5
	○生産環境工学体験実習（通年）	2	2	2	（生産環境工学体験実習）	2	2	2
	○数学	2	2	2	○応用数学	2	2	2
	○数学演習	2	2	2	○応用数学演習	2	2	2
	△生物学	2	2	2	○材料力学	2	2	2
	△化学	2	2	2	○熱力学	2	2	2
	○一般力学	2	2	2	環境科学基礎	2	2	2
	中国語（一）*	2	2	2	中国語（二）*	2	2	2
	前期合計単位	21	21	21	後期合計単位	19	19	19
	学年合計単位数						39	39
2年次	○英語（三）	2	2	2	○英語（四）	2	2	2
	○統計学	2	2	2	○統計学演習	2	2	2
	○環境土壌物理学	2	2	2	○機械力学	2	2	2
	○エネルギー工学	2	2	2	○計測・制御工学	2	2	2
	○測量学	2	2	2	○土質力学	2	2	2
	○測量実習	2	2	2	○水理学	2	2	2
	○構造力学	2	2	2	○AI・データサイエンス応用	2	2	2
	○スマート農業入門	2	2	2	○基礎実験	2	2	2
	キャリアデザイン（一）	1	1	1	○農産加工流通工学			2
	地域資源持続学	2	2	2	地球環境保全学	2	2	2
	力学演習（一）	2	2	2	力学演習（二）	2	2	2
					ものづくり設計製図	2	2	2
	前期合計単位	21	21	21	後期合計単位	22	22	24
学年合計単位数						43	43	45
3年次	○専攻実験	2	2	2	○専攻演習（一）	2	2	2
	△経済学	2	2	2				
	実用英語（三） ⁺	(2)	(2)	(2)	実用英語（四） ⁺	(2)	(2)	(2)
	農地工学	2	2	2	技術者倫理	2	2	2
	流域水文学	2	2	2	地水環境工学	2		
	社会基盤工学		2		農村計画学	2	2	2
	土木施工法		2		土地資源管理学	2		
	スマート農業（一）			2	スマート農業（二）			2
	環境情報学	2	2	2	環境リモートセンシング工学	2		
	水利施設工学		2					
	生産環境工学特別演習 [#]	2	2	2	（生産環境工学特別演習）			
	前期合計単位	12	18	14	後期合計単位	12	6	8
	学年合計単位数						24	24
4年次	○専攻演習（二）	2	2	2	○専攻演習（三）	2	2	2
	○卒業論文	2	2	2	（卒業論文）	2	2	2
	前期合計単位	4	4	4	後期合計単位	4	4	4
学年合計単位数						8	8	8
コース単位合計						114	114	114

注）*，⁺は，中国語または実用英語のいずれかを選択する，[#]は，前期に履修登録し，後期に単位が確定する

表Ⅱ-6 各学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

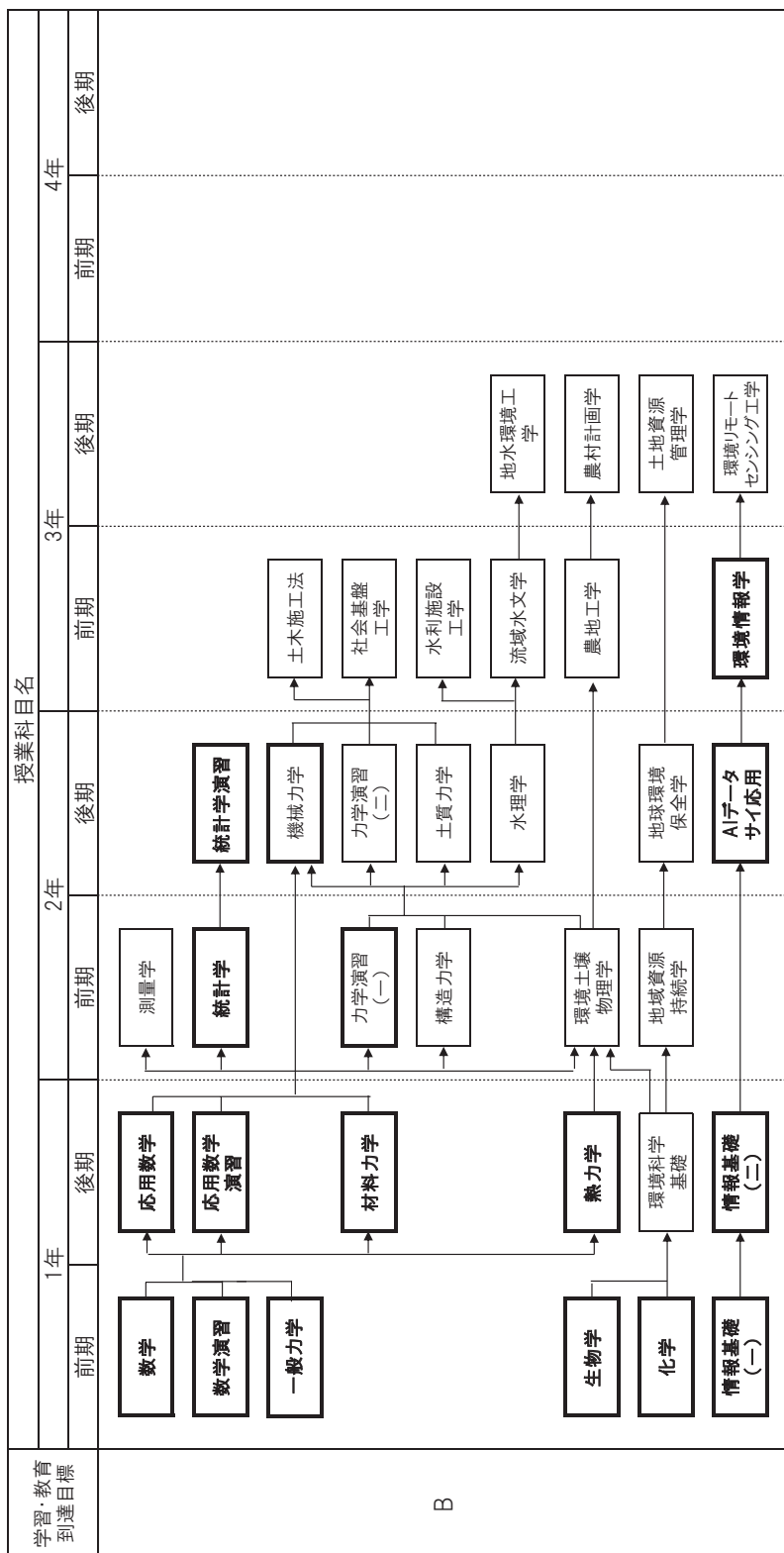
学習・教育 到達目標		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	A1	東京農業 大学入門 共通演習	共通演習						
	A2			エネルギー工学		経済学			
	A3		環境科学基礎						
	A4						技術者倫理		
(B)	B1	数学 数学演習	応用数学 応用数学演習	統計学	統計学演習				
	B2	情報基礎 (一)	情報基礎 (二)		AI・データ サイエンス応用	環境情報学			
	B3	生物学 化学 一般力学	材料力学 熱力学	力学演習 (一)	機械力学				
(C)	C1			測量学 測量実習	計測・制御工学				
	C2	生産環境工学 体験実習	生産環境工学 体験実習	環境土壌 物理学	基礎実験 土質力学 力学演習 (二)	流域水文学			
	C3			構造力学	ものづくり 設計製図				
	C4			スマート農業 入門 地域資源 持続学	地球環境 保全学	農地工学	農村計画学		
(D1)	D1-1						土地資源 管理学 環境リモート センシング工学		
	D1-2						地水環境工学		
(D2)	D2-1					土木施工法 水利施設工学			
	D2-2					社会基盤工学			
(D3)	D3-1					スマート農業 (一)			
	D3-2				農産加工 流通工学		スマート農業 (二)		
(E)	E1					専攻実験	専攻演習 (一)		
	E2	英語 (一) 中国語 (一)*	英語 (二) 中国語 (二)*	英語 (三)	英語 (四)	実用英語 (三) ⁺	実用英語 (四) ⁺		
	E3			キャリア デザイン (一)					
	E4							専攻演習 (二) 卒業論文	専攻演習 (三) 卒業論文
	E5					生産環境工学 特別演習	生産環境工学 特別演習		

注) *,⁺は、中国語または実用英語のいずれかを選択する



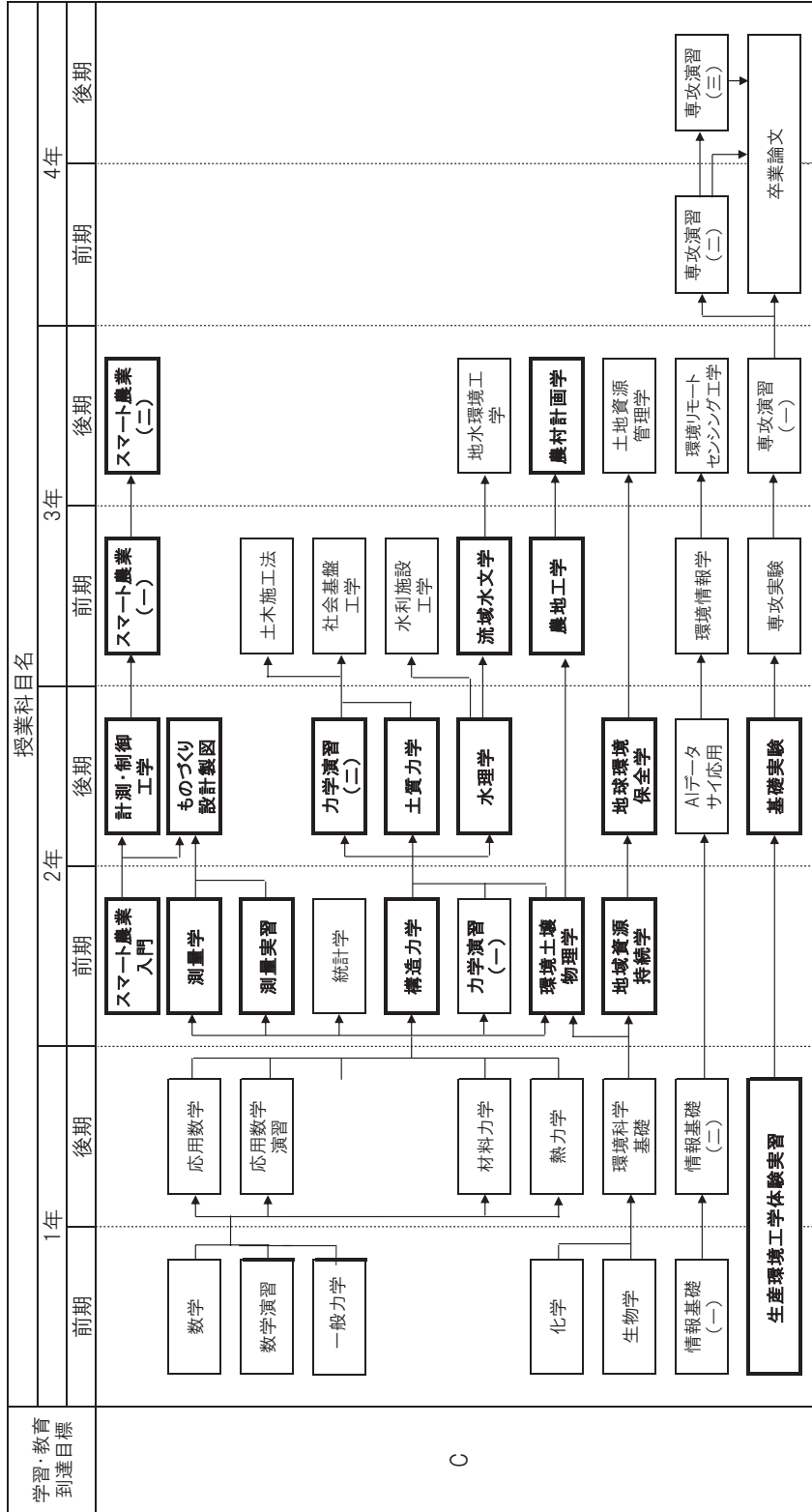
※太枠の科目は主體的な科目，その他は付随的な科目を表す。

図Ⅱ-5(a) 学習・教育到達目標(A)を達成するために必要な授業科目間の関連



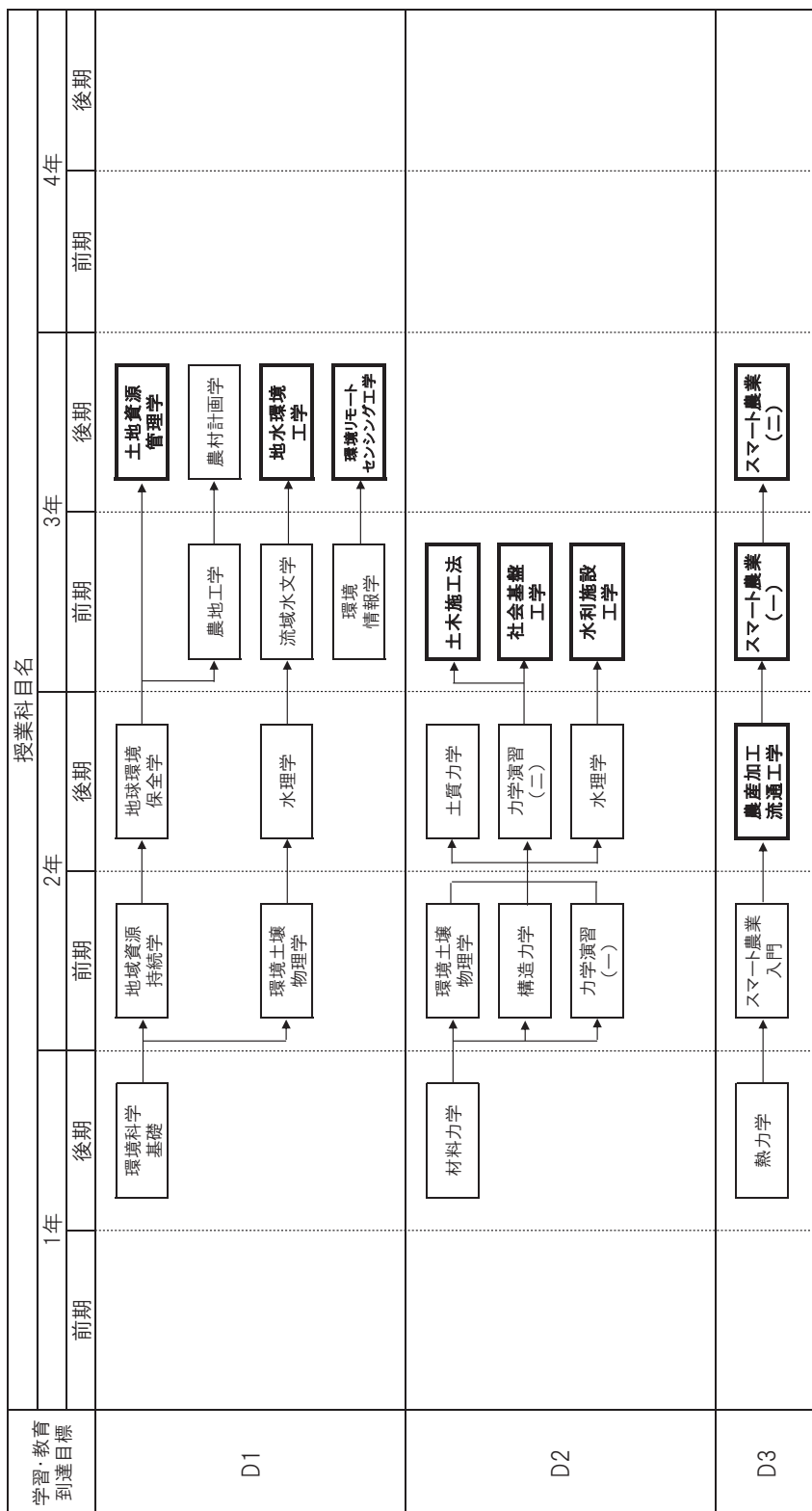
※太枠の科目は主体的な科目，その他は付随的な科目を表す。

図Ⅱ-5(b) 学習・教育到達目標(B)を達成するために必要な授業科目間の関連



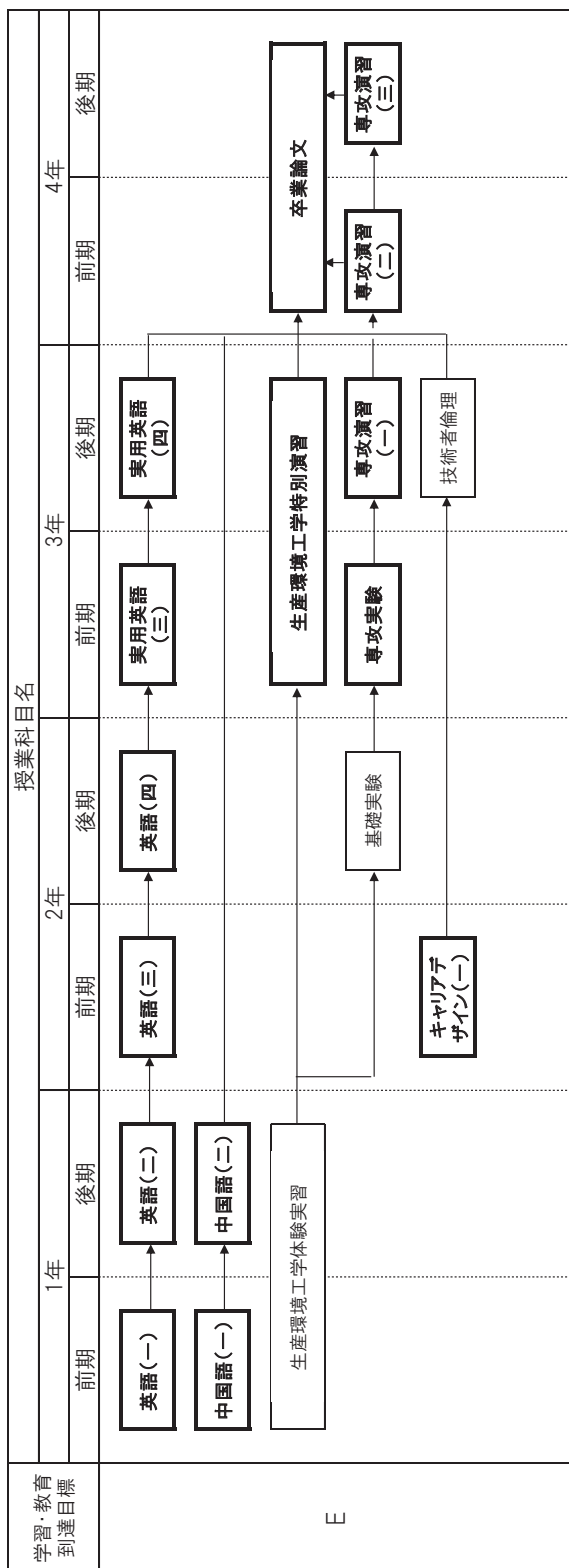
※太枠の科目は主体的な科目，その他は付随的な科目を表す。

図 II -5 (c) 学習・教育到達目標 (C) を達成するために必要な授業科目間の関連



※太枠の科目は主体的な科目，その他は付随的な科目を表す。

図 II -5 (d) 学習・教育到達目標 (D) を達成するために必要な授業科目間の関連



※太枠の科目は主体的な科目，その他は付随的な科目を表す。
 図Ⅱ-5(e) 学習・教育到達目標 (E) を達成するために必要な授業科目間の関連

(6) 学習・教育到達目標ごとの科目群と JABEE 基準および達成度評価

各学習・教育到達目標の内容と JABEE 基準との関連、またそれぞれの達成度評価基準の詳細は、以下の通りである。

(A) 人類社会における技術の位置付けと技術者としての社会的責務および倫理観を習得する

(A1) 大学・学部および学科の理念を通して人類が直面する諸問題を学び、「農」の立場から多面的に物事を考える能力を習得する

評価対象科目	東京農業大学入門，共通演習
JABEE 基準との関連	(a)，(b)，(i)

(A2) 「食料」、「環境」、「資源」、「エネルギー」などの地球的規模の諸問題を理解するために、人類社会の基礎知識を習得する

評価対象科目	経済学，エネルギー工学
JABEE 基準との関連	(a)，(b)，(e)

(A3) 農業土木の立場から環境問題を学び、知識を習得する

評価対象科目	環境科学基礎
JABEE 基準との関連	(a)，(b)，(d)

(A4) 技術者の社会的責務を理解し、技術者として持つべき倫理観を習得する

評価対象科目	技術者倫理
JABEE 基準との関連	(b)，(e)，(g)

◎学習・教育目標 (A) の達成度評価

この学習・教育到達目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であることで達成される。

(B) 農業工学関連技術の基礎知識を習得する

(B1) 農業土木技術の基礎となる数学に関する知識を学び、これを技術へ応用できる能力を習得する

評価対象科目	数学，数学演習，応用数学，応用数学演習，統計学，統計学演習
JABEE 基準との関連	(c)，(d)，(g)

- (B2) 農業土木に関する技術的諸問題の解決に必要な情報処理技術を学び、実験データの解析や直面する問題の分析を行える能力を習得する

評価対象科目	情報基礎（一）、情報基礎（二）、AI・データサイエンス応用、環境情報学
JABEE 基準との関連	(c), (d), (e)

- (B3) 力学、化学、生物学などの自然科学の基礎知識を学び、これを農業土木技術へ応用する能力を習得する

評価対象科目	生物学、化学、一般力学、材料力学、熱力学、機械力学、力学演習（一）
JABEE 基準との関連	(c), (d), (g)

◎学習・教育目標 (B) の達成度評価

この学習・教育到達目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であることで達成される。

- (C) 農業工学関連技術の専門知識を習得する

- (C1) 測量に関する知識および測量手法を学び、計測手法およびデータ処理手法の基礎能力を習得する

評価対象科目	測量学、測量実習、計測・制御工学
JABEE 基準との関連	(c), (d), (g)

- (C2) 農業工学技術に共通する専門知識として「土」と「水」に関する知識と理論を学び、実験を通して理論を応用する能力を習得する

評価対象科目	生産環境工学体験実習、環境土壌物理学、基礎実験、土質力学、力学演習（二）、水理学、流域水文学
JABEE 基準との関連	(d), (g)

- (C3) 農業工学技術者として取り扱う関連施設を学び、これらを計画・設計・施工するための基礎となる専門知識を習得する

評価対象科目	構造力学、スマート農業入門、ものづくり設計製図
JABEE 基準との関連	(d), (g)

(C4) 農地と農村地域計画について学び、地域資源の有効利用と環境に配慮した整備計画を行うための専門知識を習得する

評価対象科目	地域資源持続学，地球環境保全学，農地工学，農村計画学
JABEE 基準との関連	(d)

◎学習・教育到達目標 (C) の達成度評価

この学習・教育到達目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であることで達成される。

(D) 主要な専門知識を習得する

(D1) サブコース D1 に関する知識の習得

農地・農村のもつ多面的機能や環境保全のための技術とその評価、とくに農村地域における生活環境や環境汚染の実態解明と環境管理に関する知識を習得する。

(D1-1) 農地・農村のもつ多面的機能に関する知識を理解し、環境保全のための技術とその評価手法に関する知識を習得する

評価対象科目	土地資源管理学，環境リモートセンシング工学
JABEE 基準との関連	(d)，(e)

(D1-2) 生活環境や環境汚染に関する知識を学び、汚染の実態解明と環境管理にこれらの知識を応用する能力を習得する

評価対象科目	地水環境工学
JABEE 基準との関連	(d)

◎学習・教育到達目標 (D1) の達成度評価

この学習・教育到達目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であることで達成される。

(D2) サブコース D2 に関する知識の習得

農村・都市地域における生産環境の整備に際して、地域資源の活用、資源のリサイクル、環境に配慮した生産手段の整備および関連施設の設計や新資材の開発に関する知識を習得する。

(D2-1) 生産基盤施設の整備に必要な知識を学び、施設の計画・立案を行う基礎的能力を習得する

評価対象科目	土木施工法，水利施設工学
JABEE 基準との関連	(d)，(e)

(D2-2) 生産基盤施設を設計・施工する上で必要な材料に関する基礎的知識を学び、地域資源の活用やリサイクルについて考究する能力を習得する

評価対象科目	社会基盤工学
JABEE 基準との関連	(d)

◎学習・教育到達目標 (D2) の達成度評価

この学習・教育目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であることで達成される。

(D3) サブコース D3 に関する知識の習得

農村・都市地域における、環境保全や人間活動に配慮した農業生産システムの技術開発、設計・評価に関する知識を習得する。

(D3-1) 農業生産システムに必要な知識を学び、その設計・評価など基礎的能力を習得する

評価対象科目	スマート農業 (一)
JABEE 基準との関連	(d)，(e)

(D3-2) 農業生産システムを構築するうえで必要な基礎的知識を学び、システムの高度化や農産物の高品質化について考究する能力を習得する

評価対象科目	スマート農業 (二)，農産加工流通工学
JABEE 基準との関連	(d)

◎学習・教育到達目標 (D3) の達成度評価

この学習・教育到達目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であることで達成される。

(E) 総合的デザイン能力を習得する

(E1) 習得した科学技術と農業土木に関する知識を応用し、これを実践する能力を習得する

評価対象科目	専攻実験, 専攻演習 (一)
JABEE 基準との関連	(d), (g)

(E2) 技術的問題点の明確化と解決のために必要な日本語および外国語によるコミュニケーション手法を学び、理論的思考に基づいた説明能力を習得する

評価対象科目	英語 (一), 英語 (二), 英語 (三), 英語 (四), 実用英語 (三), 実用英語 (四), 中国語 (一), 中国語 (二)
JABEE 基準との関連	(e), (f), (h)

(E3) 農業土木技術の理論と実際についての認識を深め、社会人として活躍するために必要なキャリアデザイン手法について習得するとともに、現場で実践力を習得する

評価対象科目	キャリアデザイン (一)
JABEE 基準との関連	(d), (e), (f), (h), (i)

(E4) 新たな知識の習得を自主的・継続的に行い、獲得した知識を有効に応用して問題解決を行うための総合的設計能力を習得する

評価対象科目	専攻演習 (二), 専攻演習 (三), 卒業論文
JABEE 基準との関連	(d), (e), (f), (g), (h)

(E5) 他者と共同して課題解決を図ることができる能力を習得する

評価対象科目	生産環境工学特別演習
JABEE 基準との関連	(f), (g), (h)

◎学習・教育到達目標 (E) の達成度評価

この学習・教育到達目標は、上記評価対象科目の総合評価値が 1.0 以上であること、かつ専攻実験、専攻演習 (一)、生産環境工学特別演習、専攻演習 (二)、専攻演習 (三) および卒業論文の評価がそれぞれ A 評価以上であることで達成される。

(7) 履修方法

① 登録方法および登録時期

技術者養成コースの履修を希望する者は、後述の②登録前の準備に留意し、原則として3年進級時に行なわれる登録説明会に出席し、技術者養成コース登録書を提出してコース登録しなければならない。その際サブコースの選択も同時に行う。本コースは資格を取得することが目的というわけではなく専門技術者を養成するためのコースであるという趣旨をよく理解した上で登録すること。

② 登録前の準備

本コースの修了に必要な科目は1年次、2年次にも配当されており、本コースを目指すものは1・2年次における履修科目の選択にあたって留意しなければならない。さらに本コース修了のためには、前述したように各学習・教育到達目標ごとに設定された達成度を満足していなければならない。そのためには各学習・教育到達目標に配当されている1・2年次科目において必要な成績を収めていなければならない。従って本コース登録時の登録説明会において、既取得単位とその成績チェックを実施し、学習・教育到達目標ごとに設定された達成度に至らないと判断された場合はコース選択を受け付けない。

以上より、本コースの登録を希望する者は1・2年次における履修科目選択とその成績が重要となってくるので、入学時から十分な履修計画を立て準備しておく必要がある。

③ポートフォリオの作成

本コース履修者は、本コース修了に必要な科目において課されたレポート、小テスト答案、定期試験答案等を担当教員より返却を受けて、ポートフォリオとして作成しておかなければならない。ポートフォリオは、履修者の達成度自己評価の上で重要な資料となるので、履修者はポートフォリオを随時見直し、その後の学習に役立てることが求められる。履修者は必要に応じてポートフォリオの提出を求められ、本コース修了時には必ずポートフォリオを提出しなければならない。なお、ポートフォリオは1年次からデジタルデータ（PDFやJPEGファイル等）化して保管すること。また、データ化に必要な環境がない者には、学科に備えてある機器を使用可能であるので所属研究室教員（技術者教育検討委員会委員等）へ申し出ること。

答案等の返却に関しては、以下のルールを適用しているので、注意すること。

- (1) 答案等の返却は、原則として当該科目を受講した学期の成績質問期間以降に行う。
- (2) 答案等の返却日は、授業担当教員により別途指定される場合もある。
- (3) 上記返却期間以外での答案等の返却依頼には応じない。また保存期間（3年）を過ぎた答案等は破棄するため、希望があっても返却できない場合がある。

④技術者養成コースへの登録と修了

3年次4月に実施される登録説明会において、登録申請書、ポートフォリオ、達成度自己評価表の提出を受け教員との面談を実施し、本コース登録への意志を確認後、生産環境工

学科教育改善委員会において承認を得て登録が決定する。履修者は3年次後学期以降、各学年各学期末に実施する達成度確認会（通称、成績チェック）へ出席し、履修状況・達成度状況について教員との面談が必要となる。4年次後学期の達成度確認会で必要な要件を満たしていることが確認されれば、ポートフォリオを提出し、教育改善委員会にて承認を得た後、コース修了が確定する。

⑤編入生（転入生、転学部転学科生を含む）の技術者養成コースへの登録基準

本学科への編入生も、一般の学生と同様3年次から技術者養成コースに登録可能である。その際、編入学前の教育機関（出身大学等）での既修得科目を本コース修了に必要な科目として認定できる場合がある。その可否は生産環境工学科技術者教育検討委員会および教育改善委員会で決定される。出身大学等での成績およびシラバス等を参考に認定科目は決定されるので、決定に際し参考資料の提出が求められ、口頭試問や出身大学等への問い合わせが実施される場合がある。

⑥技術者養成コース・生産環境コース間の移籍について

(1) 技術者養成コース履修者が生産環境コースに移籍を希望する場合、あるいは生産環境コース履修者が技術者養成コースへ移籍を希望する場合は、次に示すような条件のもとでのみ移籍が認められる。

(i) 技術者養成コースから生産環境コースへの移籍について

技術者養成コースから生産環境コースへの移籍は3年終了時に、以下のいずれかの条件に該当する者について、生産環境工学科技術者教育検討委員会および教育改善委員会での審査（以下、学科内審査）を経て承認が得られた場合に認められる。

①退学あるいは休学した者

②何らかの止むを得ない理由により研究室活動を続けられない者で、生産環境コースへの移籍を希望する者

③カリキュラム上、修学期間中における学習・教育到達目標の達成が困難である者

(ii) 生産環境コースから技術者養成コースへの移籍について

生産環境コースから技術者養成コースへの移籍は3年終了時に、以下のいずれかの条件に該当する者について、学科内審査を経て承認が得られた場合に認められる。

①退学あるいは休学後に再入学・復学した者で技術者養成コースへの再登録を希望する者

②技術者養成コース登録者と同等以上の熱意を有するとともに所定の学習・教育到達目標を達成している者

(2) コース間の移籍申請

コース間の移籍を希望する者は所定の移籍願を生産環境工学科技術者教育検討委員会委員長へ提出する必要がある、委員会での面談実施後、学科内審査を経て決定される。

Ⅲ 就職活動の案内

1. 就職活動の流れ

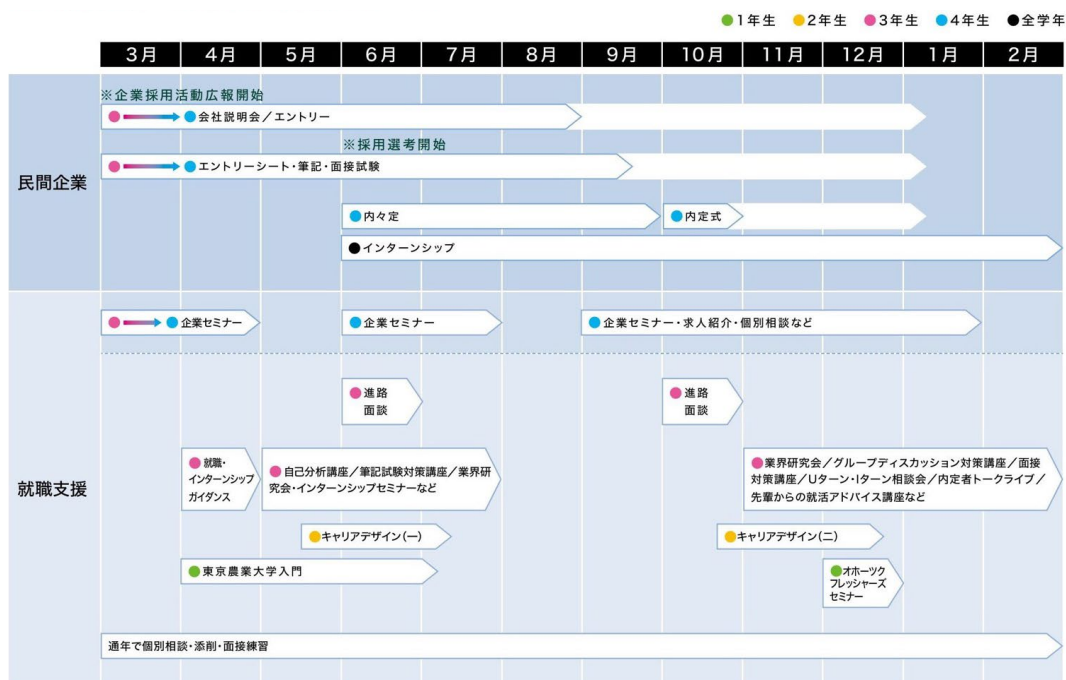
生産環境工学科の前身は、農業土木と農業機械の分野で構成された農業工学科である。学科紹介にある通り、1940年に農業工学科が創設されてから現在（2024年）に至るまで、本学科は84年の歴史を有しており、卒業生は各種公務員、中学・高校教員、コンサルタント、建設会社、機械関連会社、食品関連会社、情報関連会社、各種団体など多岐の関連分野で数世代にわたって活躍している。そのため、就職活動を進める際には、大学のキャリアセンターや教員以外にも、本学科の多くの卒業生からの支援をうけることができる。

本学科においては、入学当初から卒業後の就職先ならびに自分自身に適した職業を自分自身で検討しはじめることを勧めている。その就職先に合わせてどの関連科目に重点をおいて学習するのか、就職活動を始める前に何を習得しなければならないのか、を意識して欲しいのである。必要な情報収集に当たっては、低学年から大学のキャリアセンターはもちろん、学科主催の就職関連セミナーへの参加および教員や先輩・卒業生に積極的に相談することが望ましい。

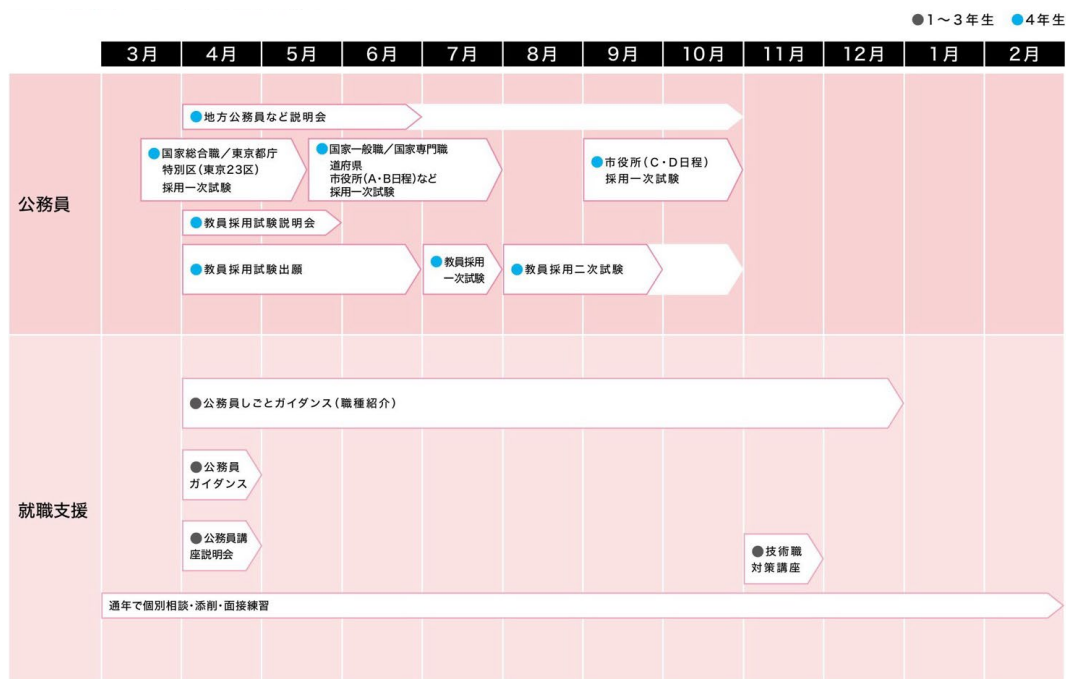
キャリアセンターが行う主な就職支援行事は図Ⅲ-1に示す通りである。就職セミナー、職業適性テストや一般常識テスト等の時期は年度によって若干の変更があるので、キャリアセンターや学科の掲示板に注意すること。またキャリアセンターでは公務員試験対策講座や教員採用試験受験対策講座を開講している。さらに、学部3年生と大学院博士前期課程1年生を対象に、企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと（インターンシップ）ができる。それら就職に関する情報は、キャリアセンターに積極的に足を運んで得ることを勧める。

キャリアセンターでは、学生の就職活動をサポートするため東京農業大学オリジナルウェブサイト「農大キャリアナビ」を開設し、大学に届いた求人情報の閲覧など就職に関する情報を発信している。また、学生ポータルにはキャリアセンターからのお知らせ、個人的な伝言が載っている（学生ポータル、農大キャリアナビへのログインは各自のID・パスワードが必要）。

■民間企業への就職を目指すケース



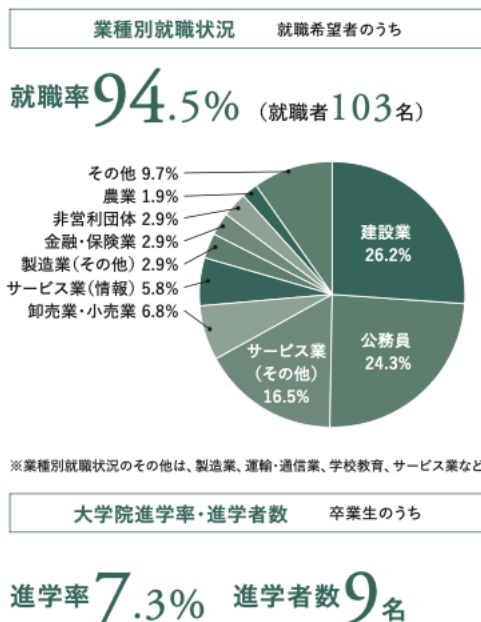
■公務員への就職を目指すケース



図Ⅲ-1 主な就職支援行事

2. 生産環境工学科の就職状況

本学科における近年の就職状況を図Ⅲ-2、主な就職先を表Ⅲ-1に示す。業種や企業・団体名をもとに、本学科の専門性がどのように活かされているのか調べてみるのが望ましい。



図Ⅲ-2 近年の就職状況

進路状況

専門技術を活かし、地球環境改善・地域活性に貢献。

一般企業、行政、教育分野などで活躍しています

表Ⅲ-1 近年の主な就職先

主な就職先
【公務員】 農林水産省、国土交通省、経済産業省、北海道庁、青森県庁、秋田県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、東京都庁、神奈川県庁、千葉県庁、埼玉県庁、静岡県庁、愛知県庁、長野県庁、山梨県庁、岐阜県庁、新潟県庁、福岡県庁、横浜市役所
【サービス業 建設造園コンサルタント】 東京水道、上伊那広域水道用水企業団、日本工営、フジヤマ、NTC コンサルタント、内外エンジニアリング、サムシング、東京設計事務所
【サービス業 情報・通信】 NTTコムエンジニアリング、NTTデータビジネスシステムズ、NTTデータCCS、富士ソフト、NECソリューションイノベータ、キャノンシステムアンドサポート、農中情諺システム、システムクスト、クリアビジョン、アルテナカ、ダイナテック、アイレット、こまちソフトウェア、日立社会情報サービス
【建設】 鴻池組、京王建設、金杉建設、佐田建設、三機工業、NIPPO、鉄建建設、日特建設、大林道路、前田道路、西松建設、大成建設、東鉄工業、日本国土開発、竹中土木、世紀東急工業、日本道路、奥村組、五洋建設
【メーカー その他】 井関農機、サタケ、カワサキ機工、ヤンマーホールディングス、フソウ、スガノ農機、エスビック、中村屋、フラワーオーケシジョンジャパン

Ⅳ 大学院農業工学専攻の紹介

1. はじめに

生産環境工学科において4年間の専門知識を習得した後、継続して勉強や研究を続けたい学生のために大学院農業工学専攻が設置されている。博士前期課程2年間および後期課程3年間で所定の成績で修了すると、それぞれ修士号および博士号が授与される。

2. 専攻の歴史

本学科の大学院は、平成2年4月の大学院農学研究科農業工学専攻修士課程開設から始まった。その後、農業工学の対象領域の変化に伴う教育研究の拡充、進展する工学的新技術を農業技術へ応用できる人材や国外における農業、技術開発において要求される能力を有する人材の育成を目的に、平成14年度から大学院博士後期課程が増設され、博士前期・後期課程の一貫した教育・研究体制が確立された。さらに、令和2年度からは学部教育との連携を重視した改組により、大学院地域環境科学研究科農業工学専攻としての新たなスタートを迎えるとともに、令和4年度からは10月入学の制度が始まった。

3. 教育・研究の内容

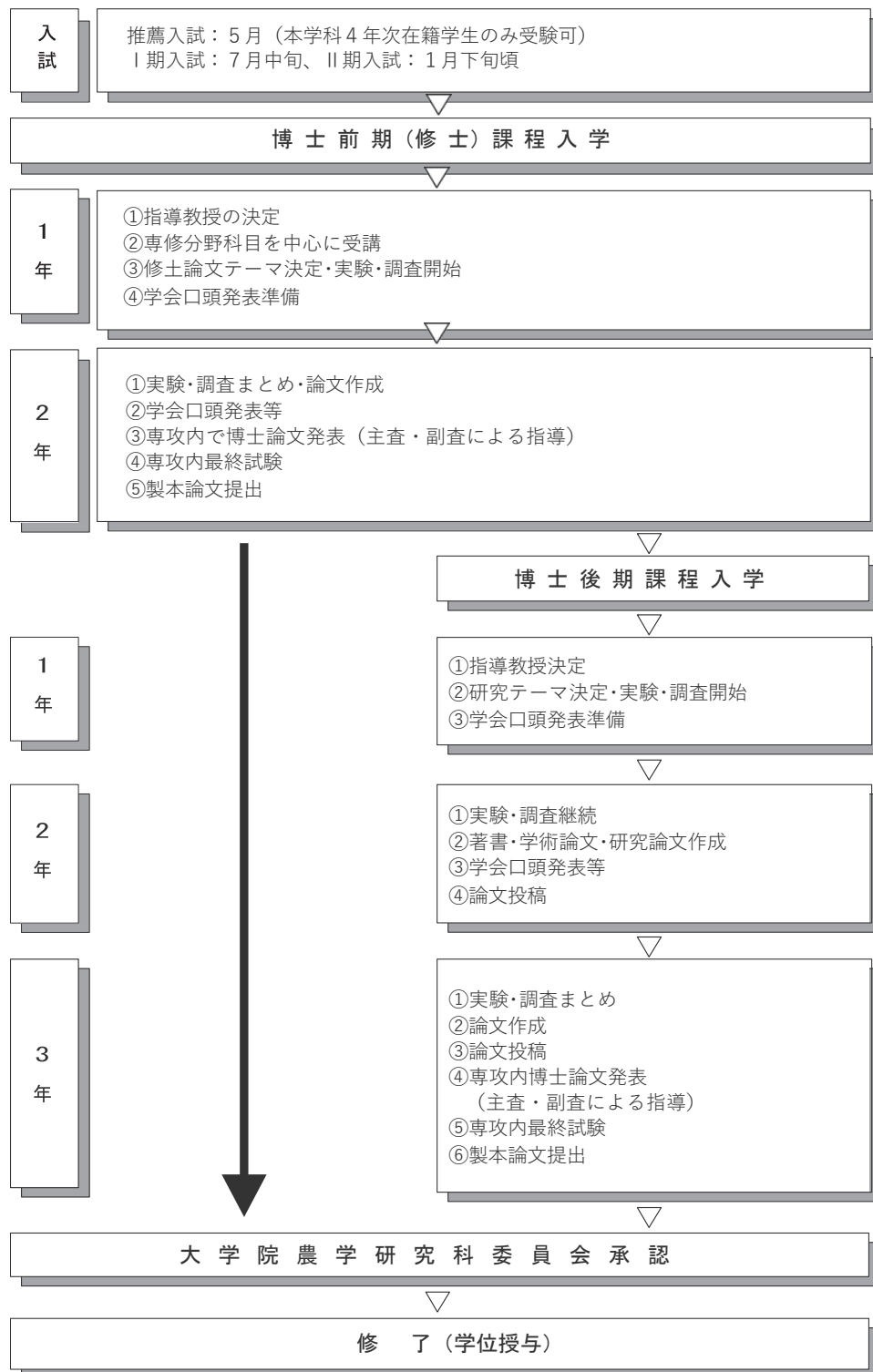
本専攻の博士前期課程では、環境保全と水、土地および食料資源の有効利用を考慮した工学的生物生産技術の開発研究に対応できる人材の教育に努めている。そのため、以下の4つの専修（学部の分野に相当）を設置し、教育研究を展開している（表Ⅳ-1）。

表Ⅳ-1 農業工学専攻の4つの専修

専修	教育研究の内容
地域資源利用学	流域から圃場までの地域における生産および生活環境の保全に関わる水資源の有効利用と土地資源の利用計画について研究する
生産環境情報・計画学	生物生産に関わる環境情報について広域および局地の両面からとらえて生産環境計画を研究する
施設工学	農業生産や生活環境の向上に必要な土木施設的设计・施工を研究する
農業生産システム工学	自然エネルギーを利用した持続型農作業技術と生態系修復技術および食料資源を有効利用するための加工流通技術を研究する

また、博士後期課程においては、博士前期課程が目指す高度な専門的研究者や職業人の育成をさらに進め、自立して研究活動ができる研究者および高度な研究能力を有する職業人を養成するため、専門性を強化する内容としている。すなわち、前期課程の4専修と同様の分野での研究指導に重点を置く教育・研究を実践している。

これらの教育・研究システムにより、博士前期課程、博士後期課程と段階的に専門化された教育研究を実施し、各段階において社会の要請に応える人材の育成を目指している。農業工学専攻のカリキュラムおよび指導教員は、大学院案内 (<https://www.nodai.ac.jp/application/files/7817/4520/2980/2025.pdf>) に示されている。また、大学院入学から修了までの流れを図Ⅳ-1に示す。



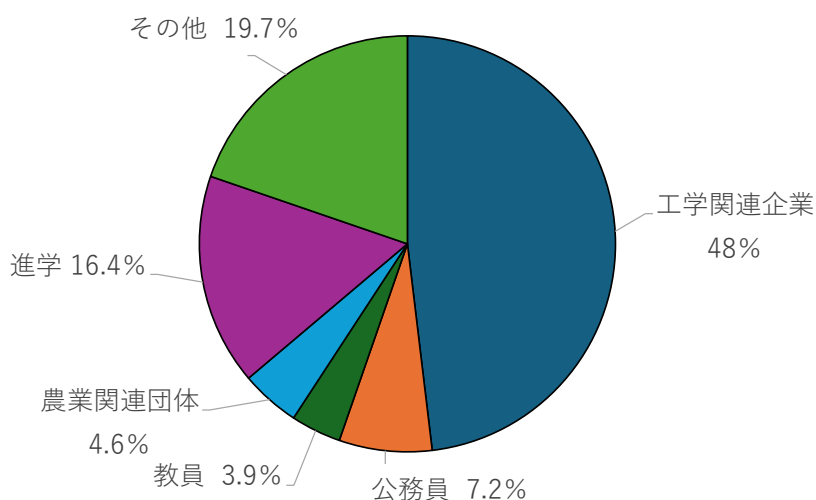
図IV-1 大学院入学から修了までの流れ

4. 育成する人材像

近年の情報技術の発達、社会の高度化・複雑化により、大学院は研究者養成だけでなく、高度な専門性を有する職業人の養成、生涯学習機会の拡大、外国人留学生教育を通じた国際貢献等の役割が期待されている。このような背景の中で、博士前期課程では、進展する工学的新技術を農業技術へ応用できる人材や、国外で要求される技術開発においても高い専門能力に加えて高い語学力を有する人材の養成を目指している。さらに、博士後期課程では、自立して研究活動ができる研究者および高度の研究能力を有する専門的職業人の養成を行なう。

5. 修了生およびその進路先

農業工学専攻の志願者および修了者等の人数を表Ⅳ-2に示す。博士前期課程の定員は8名、博士後期課程の定員は2名であり、近年においては、概ね定員を充足している。平成2年の開設以来、博士前期（修士）課程修了者は259名を数え、その就職先は大学教員を含め、ほとんどが農業工学分野の公務員や民間企業において高度な専門職に就いている。最近の就職状況として平成19年度から令和7年度に修了した152名の進路の内訳を見ると、建設業や機械製造業などからなる工学関連企業への就職者が73名と大半を占め、公務員が11名、教員が6名、農業関連団体が7名と続いている。また、博士後期課程への進学者が25名であり、進学率も高い（図Ⅳ-2）。さらに、博士後期課程修了者は、①大学・研究機関（教育・研究職）、②農業土木の計画・設計部門（公務員、コンサルタントの研究・技術職）、③農業機械開発部門（企業の研究・技術職）、④国際協力機関（上級技術職）、⑤諸外国の農業開発部門（留学生の自国での研究・技術職）、などに就職している。



図Ⅳ-1 博士前期（修士）課程修了者の進路実績（H19～R7, 152名）

表IV-2 農業工学専攻大学院志願者・修了者等の状況

農業工学専攻 修士課程				
年度	定員	志願者	入学者	修了者
平成2～13	8名/年	111	78 (13)	67 (12)
農業工学専攻博士前期課程				
年度	定員	志願者	入学者	修了者
平成 14	8	12	10 (1)	8
15	8	7	6	10 (1)
16	8	11	11 (1)	6
17	8	9	7	10 (1)
18	8	9	9 (1)	7
19	8	12	10 (1)	8 (1)
20	8	10	7	10 (1)
21	8	14	12 (1)	7
22	8	7	7	10 (1)
23	8	14 (3)	14 (3)	6
24	8	8 (1)	6 (1)	16 (3)
25	8	7 (1)	7 (1)	4 (1)
26	8	4 (1)	4 (1)	7 (1)
27	8	9 (1)	8 (1)	3
28	8	11 (3)	11 (3)	7 (1)
29	8	10 (3)	10 (3)	11 (3)
30	8	7 (2)	4 (2)	7 (2)
令和 元	8	10 (5)	10 (5)	4 (2)
2	8	3 (3)	3 (3)	10 (5)
3	8	8 (3)	8 (3)	3 (3)
4	8	15 (2)	15 (2)	8 (3)
5	8	10 (3)	10 (3)	13 (1)
6	8	8 (2)	7 (2)	10 (3)
7	8	13 (4)	13 (4)	8 (4)
計	—	339 (37)	287 (55)	259 (49)

農業工学専攻 博士後期課程				
年度	定員	志願者	入学者	修了者
平成 14	2	2	2	—
15	2	2	2 (1)	—
16	2	2	2	1
17	2	2	2 (1)	2 (1)
18	2	2	2 (1)	1
19	2	2	2 (1)	2 (1)
20	2	2	2 (1)	2 (1)
21	2	0	0	1
22	2	3	3 (2)	1 (1)
23	2	4 (3)	4 (3)	0
24	2	2	2	3 (2)
25	2	2 (2)	2 (2)	4 (3)
26	2	0	0	2
27	2	2 (2)	2 (2)	2 (2)
28	2	1 (1)	1 (1)	0
29	2	0	0	2 (2)
30	2	6 (3)	6 (3)	1 (1)
令和 元	2	1 (1)	1 (1)	0
2	2	2 (2)	2 (2)	5 (3)
3	2	2 (1)	2 (1)	2 (1)
4	2	4 (4)	3 (3)	2 (2)
5	2	4 (2)	4 (2)	2 (1)
6	2	2 (2)	2 (2)	3 (3)
7	2	4 (4)	4 (4)	4 (4)
計	—	53 (27)	52 (33)	42 (28)

注) 令和4年度より10月入学を含む、()は留学生の内数

6. 大学院論文タイトル紹介

令和7年度の修士論文および博士論文のタイトルは、以下の通りである。

【修士論文】

- ・和歌山県のミカン圃場に設置された簡易土壌水分計の評価
- ・Effects of Green Manure on Soil Properties in Pineapple Farmlands in Moung Ruessei District, Battambang Province, Cambodia
- ・電磁波伝播解析に基づく舗装構造の推定方法に関する研究
- ・UAV画像を活用した防風ネットで囲まれた大規模園地におけるキウイフルーツの生育評価
- ・Assessing the Potential of the Baobab Tree (*Adansonia digitata*) for Sustainable Rural Development and Soil Permeability Improvement in the Dodoma Region, Tanzania.
- ・Assessment of Soybean Yield Responses to Water Stress Across Phenological Stages, Soil Conditions, and Future Rainfall Scenarios
- ・Evaluation of Partial Root-Zone Drying Irrigation for Small-Scale Irrigated Agriculture in Water-Limited Regions
- ・ジブチ共和国における地域特性を活かした降雨予測モデルの構築

【博士論文】

- ・Application of Organic Soil Amendments as Strategies to Improve Soil Physical and Chemical Properties and Plant Growth in Kabul, Afghanistan
- ・Deforestation Impacts on Soil Erosion and Local Soil Conservation Approaches in Cobija, Bolivian Amazonia
- ・Assessment of Agricultural Development Potential in Riparian Watersheds in the Central Region of Malawi Using Geospatial Analysis Techniques

V 生産環境工学科におけるその他の取組み

1. 農工会

(1) 概要

農工会は、本学科の学生がより有意義な学生生活を送れるように、学生の諸活動を支援するとともに、学生相互および学生と教員との親睦を図ることを目的に設立された組織であり、その会員は本学科の全学生および全教員となっている。学生委員を含む運営委員会が、教員会議の決議を経て会の運営にあっており、2026年度の教員の役員は、表V-1の通りである。主な活動は、本学科独自の講演会・見学会の実施やキャリア支援、学生の表彰および学内スポーツ大会や収穫祭・体育祭など大学の諸行事に対する支援などである。

表V-1 2025年度農工会役員（教員）

会 長	島 田 沢 彦
副 会 長	中 島 亨
会 計 幹 事	関 山 絢 子
庶 務 幹 事	川 名 太
会 計 監 事	村 松 良 樹

(2) 活動報告

①現地見学会

農工会では、長年にわたって、生産環境工学に関連した研究機関や企業、施設等を視察する機会を設けて見学会を実施している。平成27年度から令和7年度の見学先は、表V-2の通りである。本年度は、JAXA 筑波宇宙センターを訪問し、人工衛星や無人宇宙探査機の管制システムや宇宙飛行士の訓練状況といった最先端の宇宙開発技術に触れることができた。学生にとっては、生産環境工学科の教育・研究と社会との関係を深く知るよい機会となった。

表 V -2 農工会主催 現地見学先

実施年度	見学先	実施日
平成27年度	スガノ農機株式会社, 農業・食品産業技術総合研究機構「農村工学研究所」	平成27年9月18日
平成28年度	南極観測船Shirase, 株式会社ウェザーニューズ	平成29年1月13日
平成29年度	井関農機株式会社「夢ある農業総合研究所」	平成30年1月12日
平成30年度	株式会社大林組技術研究所	令和元年1月18日
令和元年度	神奈川県恩廻公園調節池・矢上川地下調節池	令和2年1月17日
令和2～3年度	コロナウイルス感染防止のため中止	
令和4年度	農研機構 食と農の科学館, 国立研究開発法人土木研究所	令和5年1月13日
令和5年度	首都圏外郭放水路	令和6年1月12日
令和6年度	荒川水循環センター	令和7年1月17日
令和7年度	JAXA筑波宇宙センター	令和8年1月16日

②就職支援

学生の就職支援の一環として、生産環境工学科と関係が深い企業を紹介する機会として、令和7年11月19日に、就職相談会を主催した。就職相談会は、1～3年生の学生を対象に実施し、以下に示す60の団体・企業にご参加頂いた。就職相談会では、生産環境工学科の教育内容に関連する各企業の仕事内容が紹介され、学生の就職活動において有意な情報を発信できた。なお、ここ数年は生産環境工学を学んだ学生の就職が良く、求人も多数寄せられている状況が継続している。

【就職相談会にご協力いただいた団体・企業】

農林水産省, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 横浜市, 水資源機構, 茨城県土地改良事業団体連合会, 浅沼組, 植木組, カタヤマ, 金杉建設, 京王建設, 鴻池組, 坂田建設, 佐藤工業, 三機工業, 関口工業, 大旺新洋, 大成建設, 大成ロテック, 竹中土木, 鉄建建設, 東鉄工業, 東洋建設, 徳倉建設, 日特建設, 福田道路, 前田建設工業, 前田道路, 真柄建設, みらい建設工業, NTC インターナショナル, NTC コンサルタンツ, サンスイコンサルタンツ, 三祐コンサルタンツ, ジルコ, テクニカル・ジィ, 日本振興, 内外エンジニアリング, 日本海コンサルタンツ, 日本水工コンサルタンツ, 若鈴コンサルタンツ, 東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海), 首都高メンテナンス東東京, サムシング, N. ジェン, NTTデータCCS, JTP, テイクス, パスコ, ミライト・ワン, 井関農機, 奈良機械製作所, サタケ, タニコウ, カネコ種苗, フラワーオークションジャパン, 中村屋, 日比谷花壇

また、農工会では毎年、優秀卒業論文発表会において学科長賞を受賞した学生諸氏と卒業式における総代に選ばれた方を対象に副賞を授与しています。また、在学中に顕著な活動を行った学生諸氏には学科長特別賞の表彰を支援しています。令和7年度も同様の支援を行うことができました。

(3) 農工会 会則

平成三年四月一日制定

第一章 総則

第一条 本会は東京農業大学農工会（以下、農工会とする）と称する。

第二条 本会は会員相互の親睦を図ると共に、地域環境科学部生産環境工学科および大学院農学研究科農業工学専攻の学生の教育・課外などの諸活動を援助することを目的とする。

第三条 本会の事務局は、生産環境工学科事務室内（住所：東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学生産環境工学科）に置くこととする。

第二章 会員

第四条 本会の会員は生産環境工学科・農業工学専攻の在学生、および同教務職員とする。

第三章 事業

第五条 本会は第一章第二条の目的を達成するため、以下の事業を行う。

- 一、会員相互の親睦会などの開催。
- 二、学生の教育・課外などの諸活動に必要な事業への援助。
- 三、その他本会の目的達成に必要な事業。

第四章 会計

第六条 農工会の事業は、寄付金、基金、預金利子により運営する。

第七条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第八条 本会の予算および決算は別途公示することとする。

第九条 決算は会計監事による会計監査を受けなければならない。

第五章 役員および運営委員会

第十条 本会には次の役員を置く。

- | | |
|---------|----|
| 一、会 長 | 一名 |
| 二、副 会 長 | 一名 |
| 三、会計幹事 | 一名 |
| 四、庶務幹事 | 一名 |

五、会計監事 一名

六、学生委員 十名程度（原則として各学年二名以上とする）

第十一条 会長は生産環境工学科学科長が当たる。副会長は主事がこれに当たる。会計幹事、庶務幹事、および会計監事は教職員がこれに当たる。学生代表は原則として各学年の学生より、選出された二名以上のものがこれに当たる。

第十二条 委員の任期は一年とし、委員の選出に当たっての事務および業務は、前年度委員がこれに当たる。

第十三条 農工会の運営は運営委員会により行う。運営委員会は会長、副会長、会計幹事、庶務幹事、学生委員により構成される。

第六章 会の運営

第十四条 運営委員会は学生の教育・課外諸活動に関わる事業内容を審議し、審議した案を生産環境工学科学科教員会議に具申する。具申を受けた生産環境工学科学科教員会議はこの案を検討し決定する。

第十五条 運営委員会の召集は会長が行う。

第七章 雑則

第十六条 本規定の改正および追加については運営委員会で原案をつくり、生産環境工学科学科教員会議で決定する。

附 則

一、平成三年四月一日施行。

二、平成七年五月十五日、一部改正。

三、平成十年四月一日、一部改正。

四、平成十六年五月十七日、一部改正。

五、平成十七年三月末日まで旧農業工学科学科学生に対しても本会則を適用する。

六、平成二十三年十月十七日、一部改正。

七、平成三十一年四月一日、一部改正。

以 上

VI インフォメーション

1. 2026年度 年間授業計画

(応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部)

月	日(曜日)	行事予定	
2026 4	2日(木)	入学式	
	3日(金)～10日(金)	新入生ガイダンス・健康診断 在学生ガイダンス・健康診断 新入生オリエンテーション 等	
	13日(月)	前学期授業開始(7/17まで)	
	30日(木)	【休講日】	
5	1日(金)	【休講日】	
	6日(水)	【授業日】憲法記念日振替休日	
	18日(月)	【授業日】大学の記念日	
6	6日(土)	教育後援会教育懇談会	
7	17日(金)	前学期授業終了	
	20日(月)～24日(金)	前学期定期試験(7/20海の日は定期試験を実施)	
	27日(月)	}	
3日(月)～7日(金)	追試験 夏季休業 夏季集中授業、各種教育プログラム		
9	上旬	前学期科目の評価開示 教育後援会地域懇談会	
	23日(水)	}	
	24日(木)		後学期授業開始(1/22まで)
	30日(水)		秋季学位記授与式
10	12日(月)	【授業日】スポーツの日	
	29日(木)	収穫祭に伴う休講期間 準備・開会式10/29、収穫祭10/30～11/1、体育祭11/2、後片付け11/3	
	31日(土)	東京農大ホームカミングデー	
	3日(火)	}	
	23日(月)		【授業日】勤労感謝の日
	22日(火)		冬季休業
2027 1	11日(月)	}	
	12日(火)		後学期授業再開
	14日(木)		卒業論文題目届の提出期限(3年次生)
	15日(金)		【休講日】大学入学共通テスト準備日
	16日(土)・17日(日)		【入構禁止】大学入学共通テスト
	20日(水)・21日(木)		【補講日】
	22日(金)		後学期授業終了
	25日(月)～29日(金)		後学期定期試験
29日(金)	卒業論文の提出期限(卒業年次生)		
2	8日(月)～12日(金)	追試験(2/11建国記念の日は追試験を実施)	
3	下旬	後学期科目の評価開示	
	5日(金)	卒業確定者及び進級確定者の発表	
	6日(土)	学校法人の創立記念日	
	20日(土)	学位記授与式	

注:上記スケジュールは予定であり、変更することがあります。変更が生じた場合は、随時、学生ポータルにて周知します。

2. 2026年度 時間割

(1) 前学期

曜日	時間	1年生			2年生			3年生			4年生		
		区分	科目名	担当者	区分	科目名	担当者	区分	科目名	担当者	区分	科目名	担当者
月	1	中国語(一)・ドイツ語(一)		佐々木	必	スマート機材入門	佐々木	区分	土木施工法				
	2	中国語(一)・ドイツ語(一)		竹内康	必	キャリアデザイン(一)	竹内康						
	3	必修農薬学入門	*1		必	環境土木概論	三原・浅倉						
	4	選修生物学	総合元		必	地球資源概論	三原・浅倉						
	5	リマ 基礎数学	*2			データサイエンス基礎(一)(二)	三宅修平						
	6	リマ 基礎数学	東連			木材加工(実習含む)	奥野理太						
火	1	必修基礎英語	*3		必	測量学	中島・阿部・関山						
	2	必修情報基礎(一)	関山・原田・谷川正			源流文化学	入江彰昭・町田裕子・石塚真由・矢野加奈子						
	3	必修実用英語(一)	小橋昌男			土木材料学	小栗川雅	必	専攻実録	*6			
	4	必修英語(一)											
	5	リマ 基礎物理・基礎生物	東連										
	6	リマ 基礎物理・基礎生物	東連										
水	1	選必修学	松谷明彦			環境・電子工学	藤垣弘樹						
	2	必修数学	上野洋輔・菊池健			地理情報学	上野貴司						
	3	必修数学	江上・遠藤敬器		必	英語(三)	トウ・左村						
	4	必修数学	江上・遠藤敬器		必	エレクトロニクス							
	5	選必修学	根野亮徳										
	6												
木	1	必修生産環境工学生体実験	*4		必	測量実習	*5						
	2					名のこ学	高橋幸司						
	3												
	4												
	5												
	6												
金	1					力学演習(一)	川名・鈴木・村松・川上・江上						
	2	選必修化学	池崎英司		必	構造力学	川名・村松						
	3	必修一般力学	川名・村松		必	統計学	江上						
	4	リマ 文筆表現	東連										
	5	リマ 基礎化学	東連										
	6												
集中													

*1 鈴木・三原・阿部、トウ・浅倉・川上・浅倉、川上・佐村、佐々木・村松、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *2 浅野・鈴木・川名・川名・中島・中野・阿部、トウ・浅倉、佐々木・村松、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *3 中島・阿部、関山・関山・中野・上野貴司、佐々木・村松、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *4 中島・阿部、関山・関山・中野・上野貴司、佐々木・村松、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *5 中島・阿部、関山・関山・中野・上野貴司、佐々木・村松、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *6 〔環境工芸学研究室〕 浅野・鈴木・川名・川名・中島・中野・阿部、トウ・浅倉、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *7 〔環境工芸学研究室〕 浅野・鈴木・川名・川名・中島・中野・阿部、トウ・浅倉、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *8 〔環境工芸学研究室〕 浅野・鈴木・川名・川名・中島・中野・阿部、トウ・浅倉、川上・佐村、関山、関山・平山、江上
 *9 阿部、トウ・浅倉、川上・浅倉、川上・佐村、佐々木・村松、川上・佐村、関山、関山・平山、江上

(2) 後学期

曜日	時間	1年生			2年生			3年生			4年生		
		区分	科目名	担当教	区分	科目名	担当教	区分	科目名	担当教	区分	科目名	担当教
	1		中国語(二)・ドイツ語(二)		日本語概論	依村比奈子							
	2		中国語(二)・ドイツ語(二)		国際コミュニケーション工学 キャリアデザイン(二)	小原川雅 竹内 雅					専攻英語(四)		
月	3		環境科学基礎	鈴木・中島	計測・制御工学	川上・佐々木							
	4	必	夜間力学	川名	地球環境応用化学 燃焼(実習を含む)	三原・手塚 藤野雅太・田島淳					中村		
	5		A&E (Advanced Environmental Engineering)	*10	統計学実習	江上・内田治							
	6												
	1	必	船力学	中村	水理学	岡澤							
	2	必	情報基礎(二)	佐々木・谷川正雄	機軸加工製造工学	川上・野松							
	3				必	環境実務	*14						
火	4	必	英語(二)		↓								
	5	選必	歴史学	松崎茂	日本の森林文化	朝岡東生							
	6				金属加工(実習を含む)	藤野雅太							
	1		実用英語(二)	若松伸源									
	2		スポーツ・レクリエーション(二)	上野洋輔・菊地淳	作物生産学	上地由朗					技術者倫理		
	3	必	共通演習	*11	英語(四)	必	船殻工学(一)	*15					
	4		演習講	飛井恭	電気化学	トウ					中島		
	5												
	6												
	1		微生物環境学	*12	力学演習(二)	川名・鈴木・村松・川上・江上							
	2	選必	物理学	竹村彰夫	必	土質力学	鈴木						
	3	必	生産環境工学生体検査学	*13									
木	4		↓										
	5												
	6												
	1				社会科学 モノづくり設計概論	渡辺啓己 佐村・谷川正雄							
	2	必	応用数学	江上・瀬原敬福	機械力学	川上・左村							
	3	必	応用数学演習	江上・瀬原敬福									
金	4	選必	文学	榎田明子	必	A1. データサイエンス応用	岡山・平山						
	5												
	6												
集中			インターナショナル・スタディーズ(二)(三)								インターンシップ	竹内 雅	

*10 中島、渡瀬、鈴木、川名、三原、中村、岡澤、佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上
 *11 中島、トウ、田中重、手塚、渡辺、藤田、佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上
 *12 中島、トウ、田中重、手塚、渡辺、藤田、佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上
 *13 藤田、鈴木、川名、中島、中村、岡澤、トウ、栗倉、佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上
 *14 【職業工科大学研究室】渡瀬、鈴木、川名、中島【環境資源学研究室】三原、中村、岡澤、トウ、浅倉【バイオロポリティクス研究室】佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上
 *15 【職業工科大学研究室】渡瀬、鈴木、川名、中島【環境資源学研究室】三原、中村、岡澤、トウ、浅倉【バイオロポリティクス研究室】佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上
 *16 渡瀬、鈴木、川名、中島、中村、岡澤、トウ、浅倉、佐々木、村松、川上、左村、藤田、岡山、平山、江上

3. 2025年度 各賞受賞者（敬称略）

●東京農業大学卒業論文優秀賞（学長賞）

廣瀬 憲（広域環境情報学研究室）「福島県浪江町における震災以降の景観変容と獣害被害の分布特性」

●大日本農会賞

金澤寛志（地水環境工学研究室）「湛水発生のメカニズム解明のための土壌の吸水度の測定と解析方法の検討～野外での負圧浸入計の活用に向けて～」

●生産環境工学科学科長賞

穂山芽衣（地域資源利用工学研究室）「中干し延長が水田のメタン排出と鉛直水分分布に与える影響」

植田美咲（農村環境工学研究室）「食品廃棄物を用いた高炉スラグ-堆積物型微生物燃料電池の通電・メタン生成特性に及ぼすCSH系材料添加の効果」

高崎由夏子（社会基盤工学研究室）「アルカリ活性剤濃度と初期養生条件がジオポリマーコンクリートの強度・硬化特性に与える影響の評価」

上田一葉（水利施設工学研究室）「レタスの栽植密度がアクアポニックスの生育と水質に与える影響」

小古間有輝（バイオリボティクス研究室）「成長過程に着目したコオロギ飼育装置の開発－YOLOを用いたコオロギ移動評価－」

藤田 悠（農産加工流通工学研究室）「腎臓病患者のための低リン米の精米方法」

●生産環境工学科成績優秀特別賞

長澤ひかり

●生産環境工学科総代

廣瀬 憲

●生産環境工学科学科長特別賞

4年

古谷 俊

食品廃棄物を燃料とした高炉スラグ-堆積物微生物燃料電池の発電性能に及ぼす電極面積の影響

小古間有輝

生育過程に着目したコオロギ用 Agri-CPS プラントの開発

廣瀬 憲

福島県浪江町における震災以降の景観変容と獣害被害の分布特性

吉田優里

プログラミング教材 MESH を用いた自動灌水装置の改良

植田美咲

養分の同時回収を可能とする微生物発電システムの開発

古江晟那

生物生育分野における教材検討 ―バケツ稲とエビの共生教材―

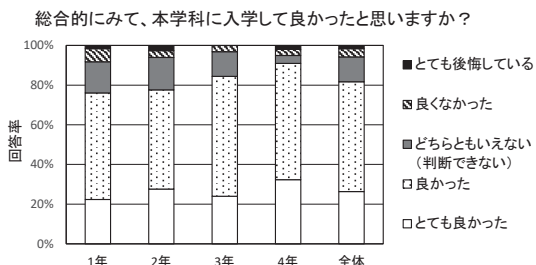
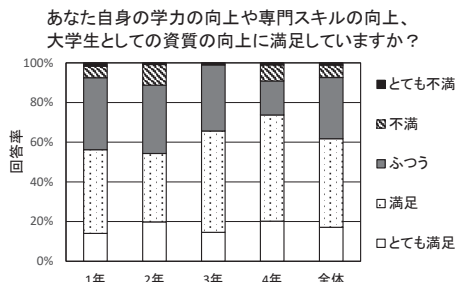
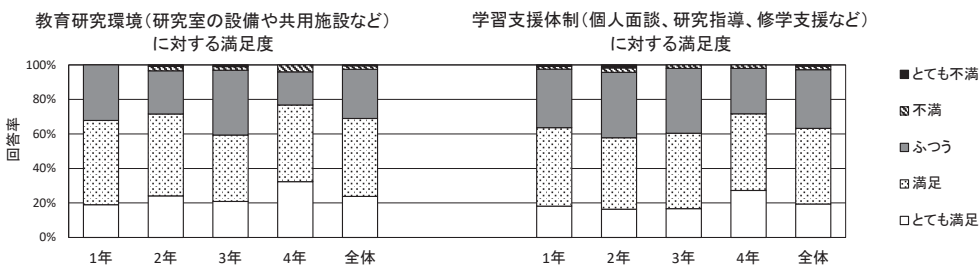
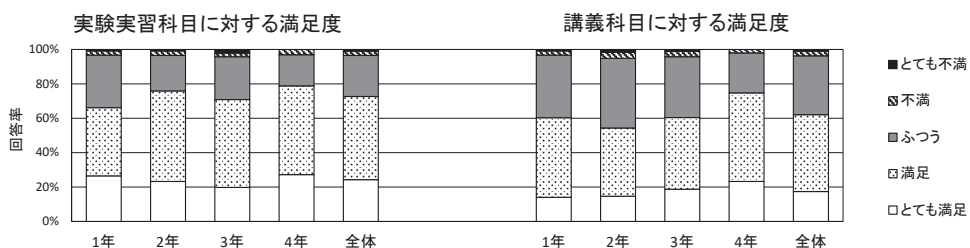
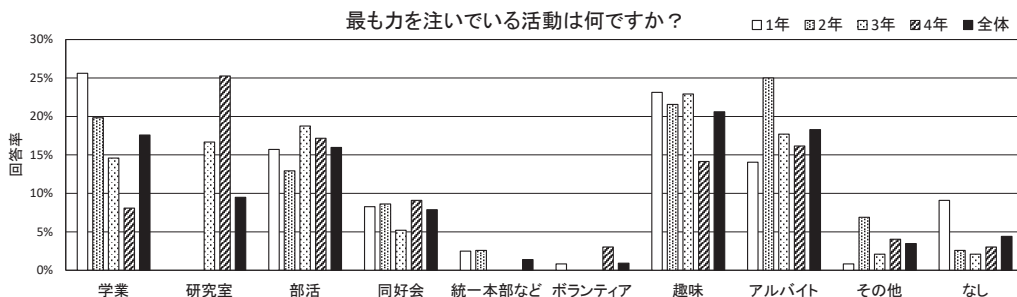
4. 在学生意識調査結果

2025年度 学生満足度調査の結果

生産環境工学科に在籍する全学生を対象に実施

	1年	2年	3年	4年	合計
在籍者数	137	146	149	125	557
回答数	121	116	96	99	432
回収率(%)	88	79	64	79	78

1,2年: 2024年度カリキュラム対象学生
3,4年: 旧カリキュラム対象学生



5. 技術者養成コースの教育に対する社会の評価

I. アンケートの趣旨

JABEE では、教育プログラムを改善していくフィードバックシステムの機能を重視しており、特に卒業生、卒業生の受け入れ先企業および地社会などの評価や意見を教育プログラムに反映し、改善していくことを求めている。そのため、生産環境工学科（旧 農業工学科）の卒業生ならびに卒業生の受け入れ先企業（上司）を対象に、本学科の技術者教育に関するアンケートを平成 30 年度に実施したので、それらの結果を公開する。

II. 卒業生受け入れ先企業等（上司）に対するアンケート集計結果

(1) 回答者数：23 人

農業土木関連民間企業（土木建設，測量設計，コンサルタントなど）	9 人
公務員（国，県，市町村）	6 人
農業機械関連民間企業（農業機械メーカー，販売，食品関連など）	5 人
その他	3 人

(2) 集計結果

問 1 あなたは以前から JABEE を知っていましたか。

はい	13 人
いいえ	10 人

問 2 問 1 で「はい」と回答された方にお尋ねします。

農業工学分野に JABEE は必要性があるとお考えでしょうか。

はい	12 人
いいえ	1 人

理由

- 企業として技術士がいる方が信用性が上がるから。
- 技術は地球共通のもの。
- 上を目指して継続的に勉強するきっかけとなるため。
- 農業土木関係は比較的狭い分野ではあるが、技術的専門性が求められている。

問 3 貴職場において農業工学分野の業務を遂行する場合に必要な、あるいは持っていた方が望ましい資格を挙げて下さい。

技術士，技術士補，測量士，測量士補，土木施工管理技士 一級・二級
自動車整備士資格

問 4 貴職場において「技術士補」，「技術士」の資格取得を支援する決まりやシステムはありますか。

給与への反映（技術士，技術士補），取得時の報奨金（技術士，技術士補）受験料，講習会参加費等への補助

問5 農業工学技術に必要な基礎的科目は何だとお考えですか。

数学，物理，生物，化学，地理学，世界史，英語，国語，倫理

問6 農業工学技術者教育における専門基礎および専門分野に必要な授業科目は何だとお考えでしょうか。

構造力学，水理学，土質力学，機械力学，材料力学，水理学，農村工学，土地改良学，測量学

問7 これからの技術者教育では，主としてどのような内容に取り組むべきであるとお考えですか。

コミュニケーション能力，語学力，企画力，説得力，一般教養，専門知識，実験技術

問8 当学科のような農業工学関連学科における教育の今後の方向性について，ご意見をお聞かせください。また，大学の技術者教育に何を期待しますか，ご意見をお聞かせ下さい。

- 学生の自信をつけさせることと、スキルをアウトプットできる能力
- 知識と実践を通して深く理解出来るプログラムの創生
- 国際的に通用する技術者教育に期待します。
- 様々な知識や意見を持った学生の輩出に期待いたします。
- 自ら考えて課題を解決できる能力
- 課題に対する問題解決能力
- 農業工学を学ぶ学生の継続的な確保
- 現場力、農業・農村の現状を理解すること
- 測量やCADなど即戦力になれる人材を求めています。WordやExcelなどのスキルも必要不可欠です。
- 農業工学の枠にとらわれずに土木全般に通用できる技術教育を期待したい。
- まずは、水理などの専門知識をしっかりと身につけること。そして、専門分野だけでなく、幅広い分野に興味をもつことにより人間力も鍛えていただきたいと思います。

Ⅲ. 卒業生に対するアンケート集計結果

(1) 回答者数：28人

公務員（国，県，市町村）	12人
農業土木関連民間企業（土木建設，測量設計，コンサルタントなど）	8人
団体（独立行政法人，土地改良事業団体，農協など）	2人
農業機械関連民間企業（農業機械メーカー，販売，食品関連など）	1人
その他	3人

(2) 集計結果

問1 あなたは以前から JABEE を知っていましたか。

はい	22人
いいえ	6人

問2 問1で「はい」と回答された方にお尋ねします。

農業工学分野に JABEE は必要性があるとお考えでしょうか。

はい	20人
いいえ	2人

理由

- 業務で使用するため
- 技術士補の資格が得られること、
- 民間企業につとめていた同業者の方が技術士は必要だといわれたから。
- 就職してからは勉強する時間がなかなかとれないので、学生のうちに取得しておくとな後が楽だと思う。
- 土木に関する基礎知識を幅広く習得することができるため
- JABEE の科目は建設業をするうえで必要と思うから。
- 技術者不足による専門知識の獲得とエンジニア確保のため。
- 技術士補（技術士一次試験）が免除されるから

問3 あなたが既に取得されている資格はなんですか。

技術士補，測量士補，小型移動式クレーン，フォークリフト運転技能講習，ECO 検定，土木施工管理技士一級・二級，危険物乙4

問4 あなたがこれから取得したいとお考えの資格はなんですか。

技術士，技術士補，測量士，測量士補，土木施工管理技士一級・二級，コンクリート診断士，エネルギー管理士，電検，電気工事士，食品衛生責任者，食品衛生管理者，応用情報技術者，ビオトープ管理士，環境計量士

問5 本学科で学んだ科目で、社会に出てから役に立ったものは何ですか。
専門科目、実験・実習・演習科目、卒業論文、現場調査、教養科目（自然科学）、語学

問6 研究室での活動は 社会に出てから役に立ちましたか。

非常に役に立っている	10人
役に立っている	17人
それほど役に立っていない	1人

理由

- 専門技術が学べたため、また研究室・研究活動に関わる多くの方々と出会えたため研究室で学んだことがそのまま活用できているため。
- 社会人としての教養を身につけたから。
- 人に説明をする際にはどのような資料が必要か、資料の作成についての知識を学べたため。
- 研究室活動を通じて人間関係及び協調性等について日々学ぶことができた。
- コミュニケーション能力、専門知識、プレゼン能力、
- 業者とのやりとりの中で専門用語が出てきたときに、理解できる。
- 社会での基本的なマナーを学ぶ場としては良いのではと思う。
- 勉学以外にも、コミュニケーション能力やコミュニケーションの幅を広げるには重要。社会に出ても結局必要なのは対人力。
- 求められる結論、結果に対しての論理的思考及びプロセス構築の基礎、工具等の名前、使用方法を身につけることができたと感じるため
- プレゼンテーション能力の向上を感じられたため

問7 農業工学技術に必要な基礎的科目は何だとお考えですか。
数学、物理学、生物学、化学、国語、倫理、英語、一般教養

問8 農業工学技術者教育における専門基礎および専門分野に必要な授業科目は何だとお考えでしょうか。
基礎力学、構造力学、土質力学、水理学、水利施設工学、道路工学、測量、土木材料、農業基礎、水利学、コンクリート工学、水利施設工学、土壌物理学、農業実習、農村計画学、
複数人による課題研究を行うなどのコミュニケーション能力を養うグループディスカッション系の授業、
公共事業のあり方とそれに関わるプレイヤーの実際を学ぶ科目

問9 本学科で不足していたと思われる学問領域がありましたら教えて下さい。
CADの演習（土木分野）、道路の設計および水路の設計
CADについての基礎知識（ペン設定やレイアウトの変更方、2Dでの作図経験）土木設計製図
現部研修（土地改良施設などの見学）

問 10 これからの技術者教育では、主としてどのような内容に取り組むべきであるとお考えですか。

文章力、コミュニケーション能力、実験技術、専門知識、一般教養

問 11 当学科のような農業工学関連学科における教育の今後の方向性について、ご意見をお聞かせください。また、大学の技術者教育に何を期待しますか、ご意見をお聞かせ下さい。

- 専門分野を学ぶことは非常に大切ですが、大学4年間で身につくものは限られています。一方社会に出てから学ぶことは多々ありますが、学びを経験に頼るのではなく、積極的に学びに向き合い、より成長していけるような技術者教育に取り組んでいただけたらと願います。
- 農業を主体とする土木のサポートの必要性を期待します。特に地方の農業。
- このままで良いと思います。伝統ある大学で、生徒・教授が思ったことを実行できる大学であるべきだと思います。
- 卒業後も農業工学に携わる人材を輩出していただきたいと思います。
- 技術者と会話出来る知識及び、コミュニケーション能力

問 12 本学科の後輩への助言がありましたら記入して下さい。

- 大学・研究室の活動も、それ以外のことも、いろいろ体験して多くの経験をしてください。4年間終えたときに、胸をはれるように、頑張ってください！
- 勉強をしっかり頑張ってください。
- 人に説明する機会が多いので、学生の間で練習をしておくといいと思います。
- 自分に素直にやりたいことをやればよいと思います。
- 常にニュートラルな気持ちで頑張ってください。
- CAD を使えと、設計や工事に関わる人には非常に役立つと思います。
- 研究室に入室したら、卒業するまでしっかり取り組んでください。収穫祭の準備、卒業論文手伝い、日々の研究室活動等が社会に出た時に役立つ時が来ると思います。
- 単位を取ることを目標にするのではなく、知識を得ることを目標としてがんばってください。

「技術者倫理」担当講師・鮫島先生より（日本技術士会所属）

JABEE コース修了生は各国（ワシントンアコード加盟国）の専門技術者として登録を受けることのできる資格として認知され、海外において技術者として活躍できる大きなアドバンテージになります。是非チャレンジしてください。

6. 技術者教育（技術者養成コース）に対する卒業生からの要望

平成 17 年度に「生産環境工学科教育システム評価委員会」を立ち上げて以降、年に一回（収穫祭開催時期）定例委員会を開催している。これにより、継続的に卒業生などから意見や要望を聞く機会を設けている。

これまでに卒業生から得られた具体的な意見と要望の主なものは以下の通りである。

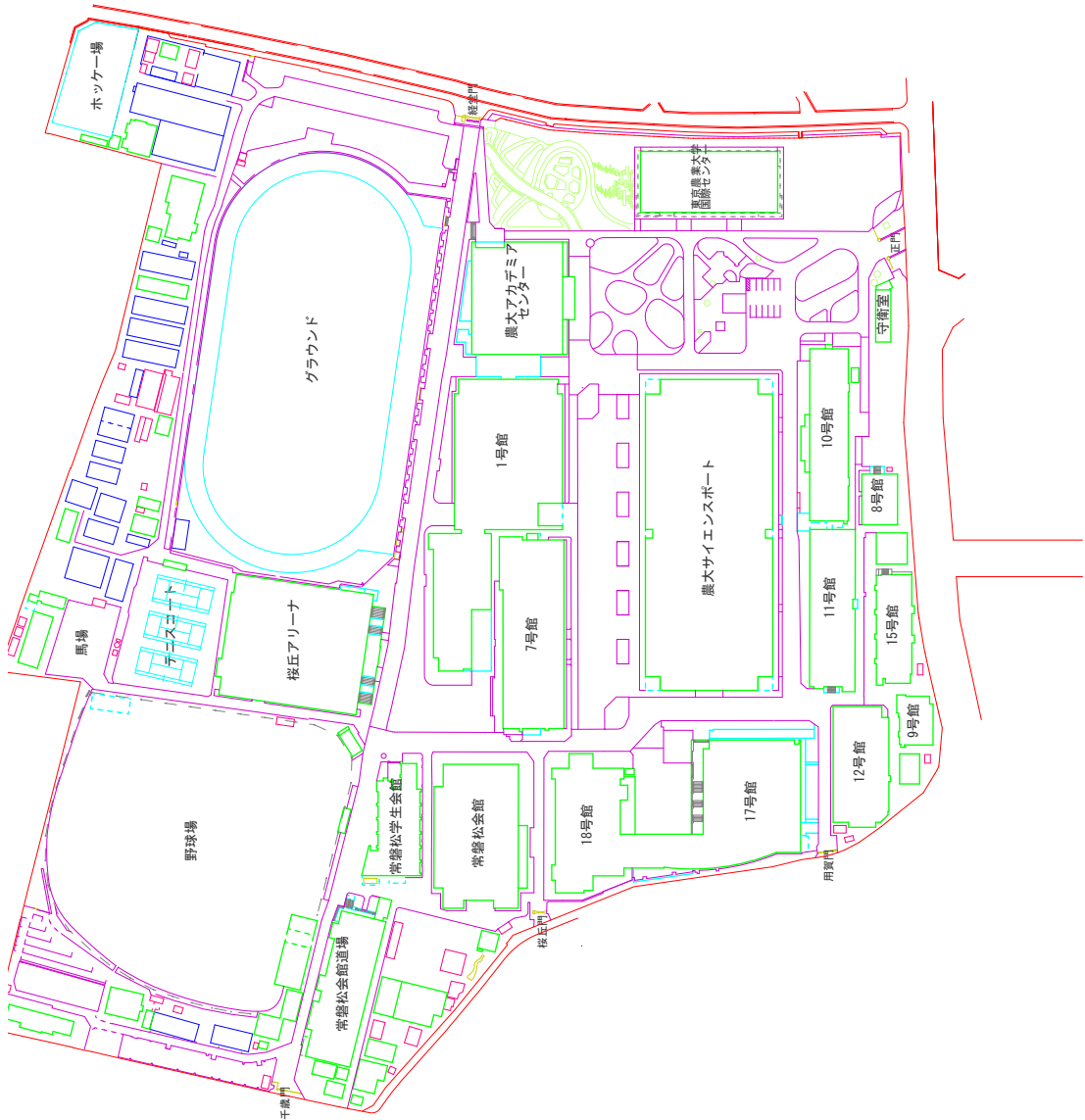
- (1) 就職状況を見ると専門就職が少なく、サービス業が多く見受けられる。現在の社会情勢を鑑みれば、専門就職の意志があっても実現できない状況は理解できる。しかし、技術者養成コース卒業生には、ぜひ専門領域での活躍を期待したい。
- (2) ISO との関連で、環境関連の仕事が増えてきている。またバリアフリー対応や景観関連の仕事も増えてきている。これらの分野を工学的視点から考究できる能力が要求されている。
- (3) 義務教育の質の低下がみられ、これが学生の向学心や卒業後の進路選択に影響を及ぼしていると考えられる。このため低学年における動機付けが重要であり、各教員の研究を反映した実習を充実させると良い。また、インターンシップも有効であると考えられる。
- (4) 専門知識を基礎に新たに自分で知識を積み上げていく能力が重要である。このため専門基礎教育が重要である。
- (5) 現場では測量が重要であるため、測量実習をしっかりとやらせて欲しい。
- (6) 現場に出て自分で課題を見つける能力が乏しい。
- (7) 受け身の学生が多く、人の話を良く聞き理解する能力、また話を引き出す能力、すなわちコミュニケーション能力がない。この能力を身につけさせるためには、授業中における発言の機会を増やすことも重要である。また、人に対して説明できる能力、プレゼンテーション能力を養う必要がある。
- (8) 農大卒ということで農業の知識を持っていると期待されている。
- (9) 語学、特に英語と中国語が重要である。
- (10) 技術士の資格は重要であるが、ぜひコース修了者を増やして欲しい。
- (11) 研究室活動を通じて培ったプレゼンテーション能力、礼儀作法等は非常に役立っている。
- (12) 公共事業等を行う上では技術士の資格が重要なので、JABEE コース修了者（技術士補有資格者）は貴重な人材である。
- (13) 既修得科目の成績を遡って変更することができれば、JABEE 登録者の増加のみならず、卒業生の質的向上にもつながることから、ぜひとも実現して欲しい。

- (14) プレゼンテーションを行う機会を多くし、①質疑に対する受け答え、②制約時間内での実施、に関する訓練を行ってみてはどうか？また、他人の発表に対して質問する訓練をするのも有効である。
- (15) 企業では技術者が有するべき倫理観を養うことが求められているため、「技術者倫理」の開講は有効である。しかし、技術者に求められる資質のうち、優先順位が高いのは「倫理観」であるという社会情勢を考慮すると、技術者倫理に関する学習・教育目標の達成度は今よりも上げる必要があるのではないか。
- (16) JABEE コース修了生をフォローアップ（例えば技術士を取る時など）できるようなシステムがあるとより良い。
- (17) 技術者養成コースの学習・教育到達目標（A：人類社会における技術の位置づけ）の中に JABEE 基準の（f：コミュニケーション能力）、（h：制約下でのデザイン能力）を満たすような科目群を配置してはどうか。
- (18) 半年ごとに行う成績チェック以外に成績をだすまでに学生個人が達成度を認識することができるシステムを構築する必要がある。
- (19) 建設分野・ものづくり分野への就職希望者が少ない現状がある。動機づけや正しい業務内容の周知のため、インターンシップの JABEE 必修化を検討する必要がある。
- (20) 新卒者を採用する立場として、言われたことしかやらないという場合が目立つようになった。コミュニケーション能力の向上が重要である。また、文章力も重要である。
- (21) 学科名にある「環境」に興味をもって入学する学生が多いと思うが、課題はほかにもたくさんある。少子高齢化や TPP の問題、ストックマネジメントや農業のロボット化など様々な技術が期待されている。環境問題だけでなく、新しい課題に挑戦できる多種多様な能力形成が必要。人文科学の分野の教養科目を充実させても良いのでは？
- (22) 最近の学生は、社会に対する知見や認識が薄い傾向にあるため、社会と大学とのつながりについて、先輩が在学生に助言するべきである。さらに、技術士の社会での位置づけを、学生が理解できる取り組みが必要である。

本コースではこれらの意見・要望を踏まえ、必要に応じて学習・教育目標やコース履修規定の検討、見直しを行っている。今後も OB・OG も含めた学外からの意見や要望の聞き取りを継続して教育システムの改善につなげていくこととしている。

7. 東京農業大学 構内配置図

世田谷キャンパス案内図



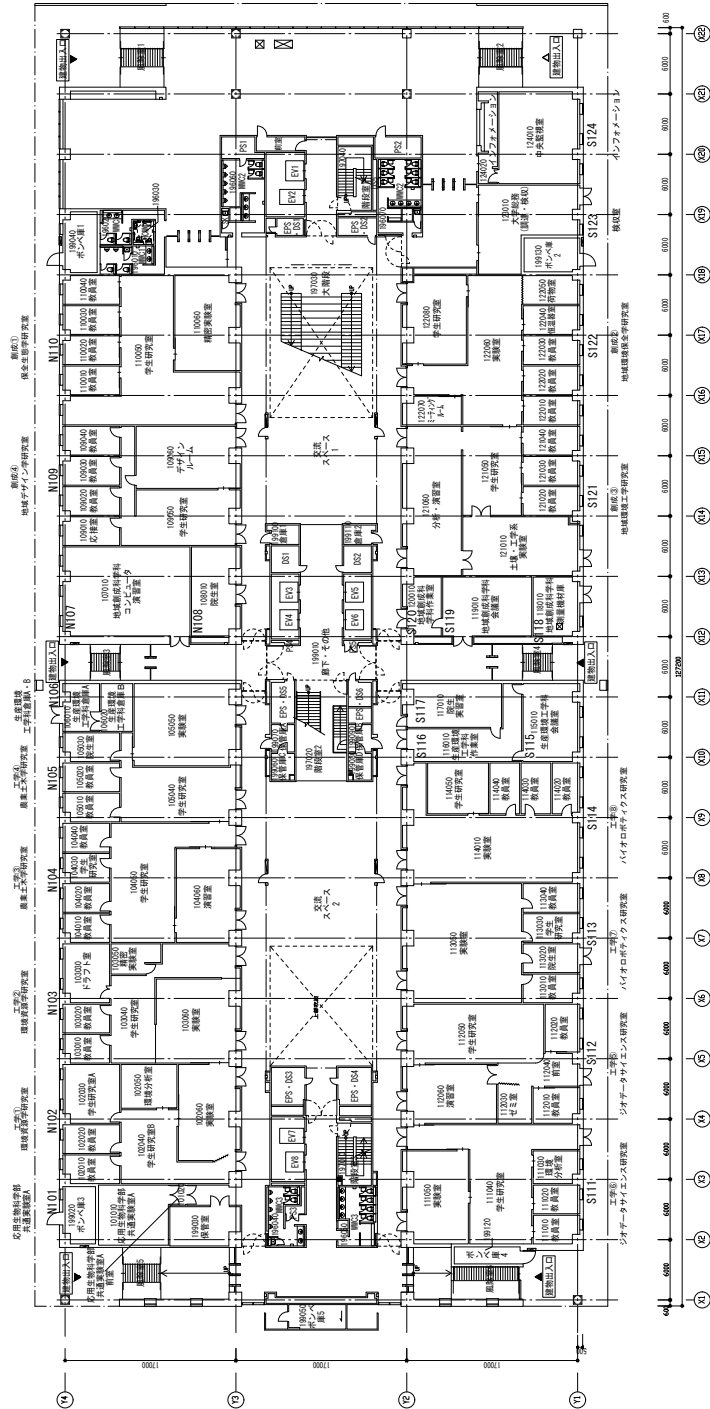
8. 研究室・教室等案内図

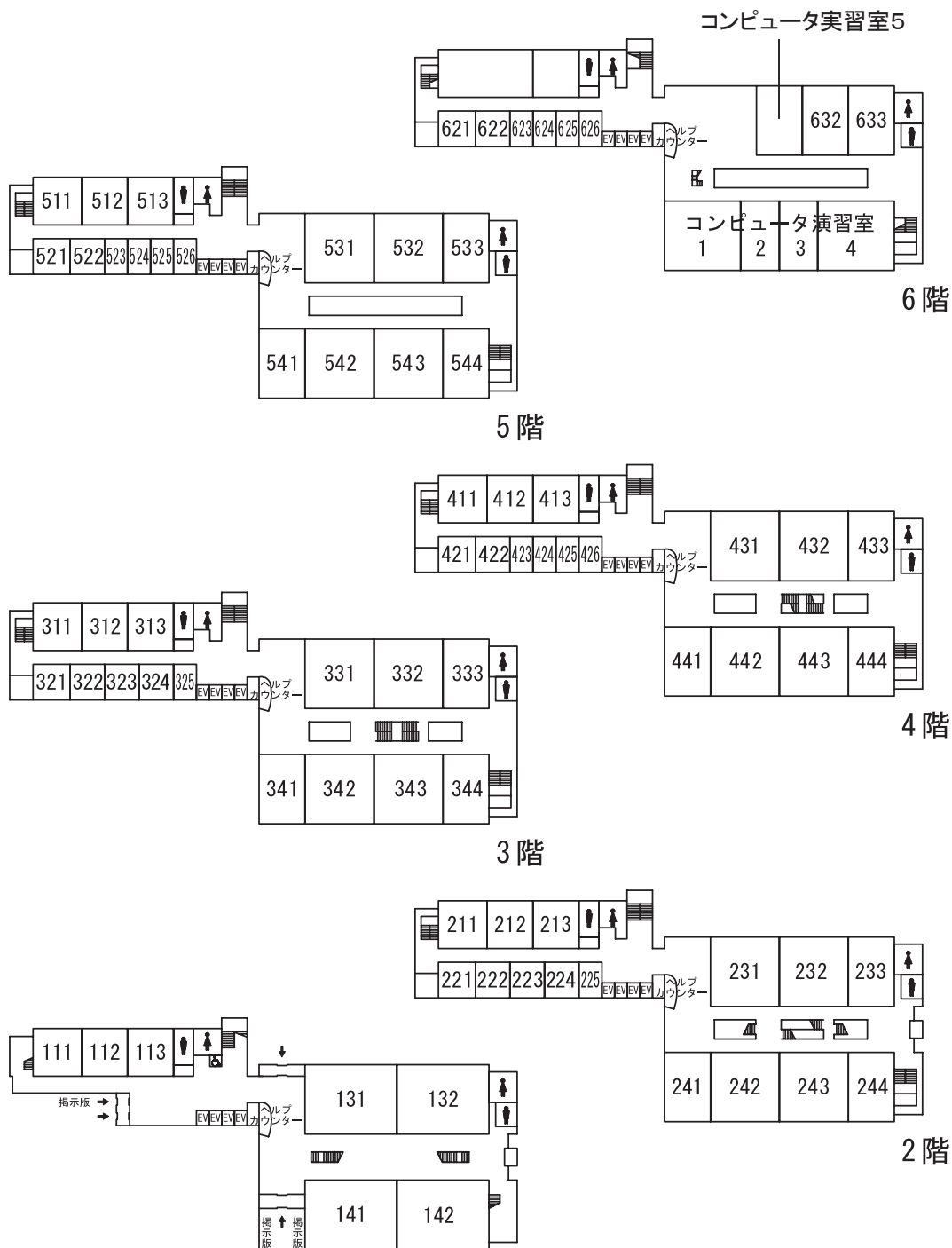
サイエンスポート（研究室）案内図



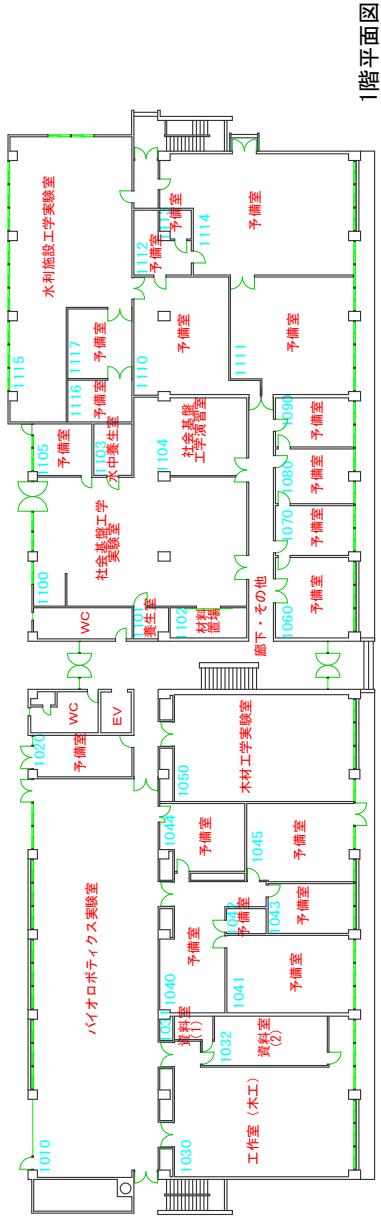
<東ウィング>：地域創成科学科

<西ウィング>：生産環境工学科

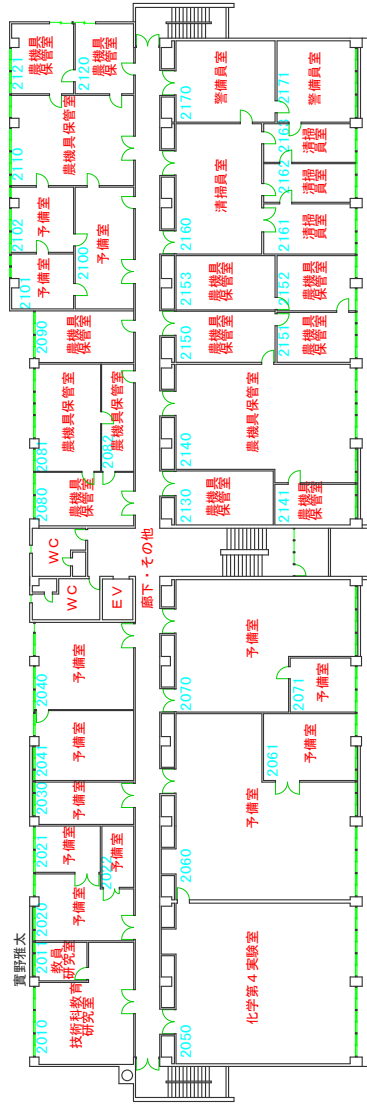




7号館（生産環境工学科研究室・実験室等）案内図



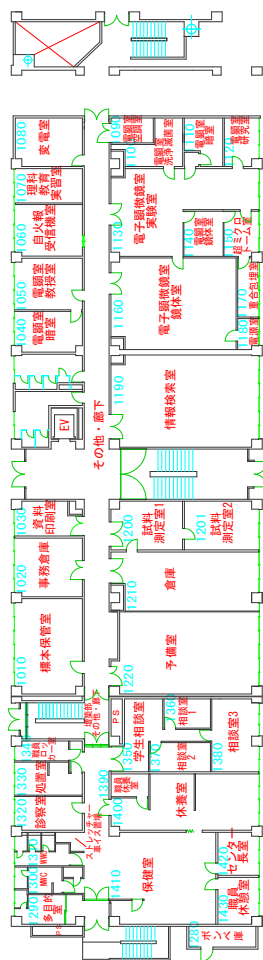
1階平面図



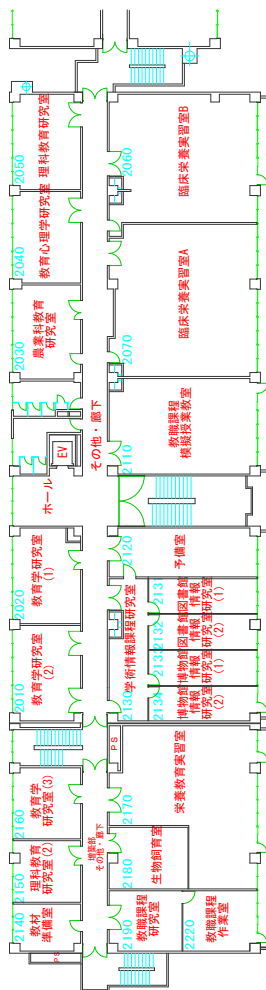
2階平面図

11号館（教職・学術情報課程・実験室等）案内図

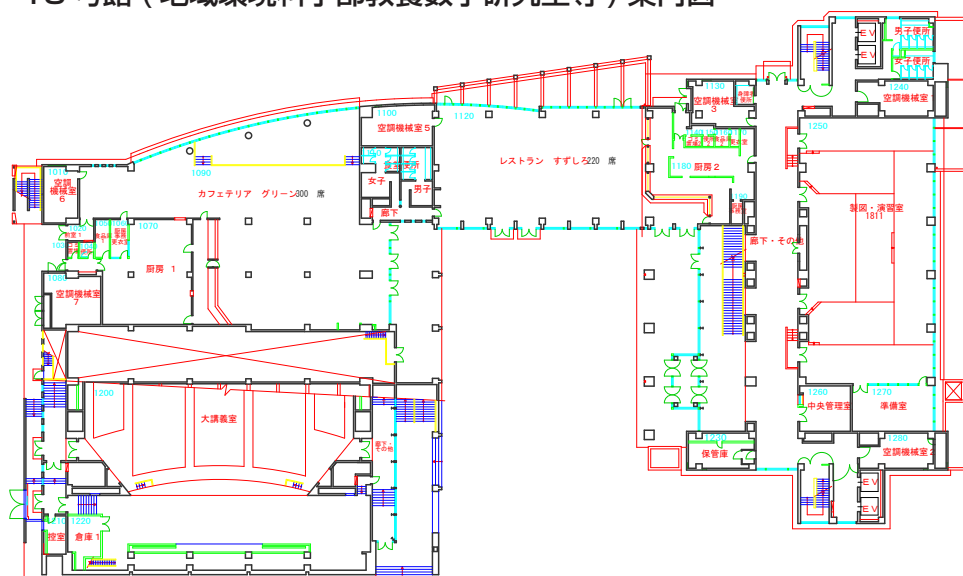
1階平面図



2階平面図

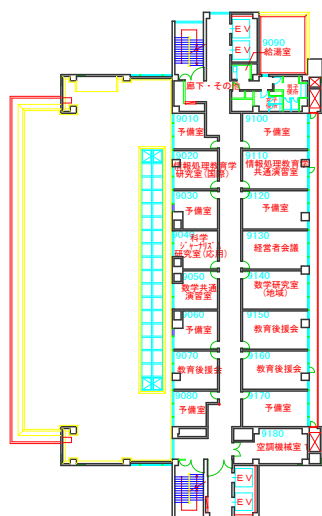


17・18号館（地域環境科学部教養数学研究室等）案内図



1階平面図

東京農業大学 世田谷キャンパス	A0150	17・18号館	2/8	1階	
-----------------	-------	---------	-----	----	--



9階平面図

東京農業大学 世田谷キャンパス	A0150	17・18号館	8/8	9階	
-----------------	-------	---------	-----	----	--

階別レイアウト

9 階	理事長室	学長室	企画広報室		
8 階	内部監査室	総務・人事部（総務課／人事課） 財務・施設部（財務企画課／財務会計課／施設課／システム管理課） 経営企画部 初等中等教育部事務部			
7 階	図書館				
6 階				キャリアセンター 情報教育センター コンピュータ自習室	1号館 連絡ブリッジ
5 階					
4 階					
3 階					
2 階	教務課 学務課	教職等支援課 グローバル連携センター	学生課 スポーツ振興室	1号館 連絡デッキ	
1 階	入学センター メール室（郵便物・宅物・学内便等）	総務課（環境管理）	展示室		
地下1階	横井講堂（281座席＋車イススペース1人分）				

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1丁目1番地

電話番号

単位・履修・試験について

教務課：03-5477-2225

学費の延納について

地域環境科学部事務室：03-5477-2911

奨学金・事故・事件・その他トラブルについて

学生課：03-5477-2681（奨学金） 03-5477-2228（それ以外）

健康診断、ケガ、病気になったとき

健康サポートセンター：03-5477-2231

世田谷キャンパスにおける緊急時の連絡先

地域環境科学部事務室：03-5477-2911 警備本部：03-3426-6087（夜間・休日）

生産環境工学ガイド

発行日：2026年（令和8年）4月1日

編集：東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科

発行者：

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

TEL 03-5477-2911（学部事務室）

<http://www.nodai.ac.jp>

2024 Department of Bioproduction and Environment Engineering,
Tokyo University of Agriculture

生産環境工学科オリジナル Web サイト



学科 Web サイト

<http://www.bee-nodai.jp/>



Instagram URL



Facebook URL

生産環境工学科では Instagram と Facebook により、研究・教育活動、学科の各種イベントを随時掲載しています。フォローをよろしくお願ひします。



東京農業大学